

座間味村公共施設等総合管理計画



平成 29 年 3 月

座間味村

目 次

第1章. 公共施設等総合管理計画の策定について	1
1. 公共施設等総合管理計画の位置付け	1
2. 公共施設等総合管理計画で対象とする施設.....	1
(1) 基準日.....	1
(2) 対象範囲.....	1
(3) 公共建築物.....	1
(4) インフラ施設.....	2
第2章. 村勢概要	3
1. 村の概要	3
2. 地形・地質.....	3
3. 気 候	4
4. 産 業	4
5. 特 産	5
6. 人口と世帯.....	6
(1) 総人口.....	6
(2) 人口動態（自然動態・社会動態）	7
(3) 年代別人口	8
(4) 将来人口の見込み	9
7. 財政・行政運営	10
(1) 歳入歳出.....	10
第3章. 公共施設の現状	12
1. 公共建築物.....	12
(1) 過去の整備量(延床面積).....	12
(2) 機能別延床面積.....	14
(3) 施設老朽化の現状と課題	15
2. 道 路	16
2-1. 村 道	16
2-2. 農 道	17
2-3. 林 道	17
3. 橋 梁	18
4. 公 園	18
5. 上水道施設.....	19
6. 下水道施設.....	19
7. 漁港・港湾.....	20
8. ごみ処理施設.....	20
9. その他公共施設	21

第4章. 機能別の現状と分析	22
1. 行政窓口機能	22
(1) 施設概要	22
2. 公民館・コミュニティセンター等（会議・研修・展示・ホール機能）	23
(1) 施設概要	23
3. 観光施設	25
(1) 施設概要	25
4. 保健・福祉機能	27
(1) 施設概要	27
5. 学校教育機能	28
5-1. 小中学校	28
5-2. その他教育施設	32
6. 子育て支援機能	35
6-1. 幼稚園	35
7. 村営住宅	38
7-1. 村営住宅	38
8. その他広域対応施設	42
(1) 施設概要	42
9. その他	45
(1) 施設概要	45
第5章. 将来の施設更新投資等の試算（財務シミュレーション）	47
1. 更新投資資産の方法	47
2. 公共建築物に係る更新投資の試算	47
3. インフラ資産に係る更新投資の試算	48
4. 公共施設（全体）に係る更新投資の資産	49
5. 財務シミュレーション	50
(1) 財務シミュレーションの前提条件	50
(2) 財務シミュレーション実施結果	50
第6章. 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針	51
1. 現状の課題に関する基本認識	51
2. 計画期間	51
3. 数値目標	51
4. 公共施設マネジメント取り組みの基本原則	52
(1) 公共建築物の基本原則	52
(2) インフラ資産の基本原則	52
5. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方	53
(1) 点検・診断等の実施方針	53
(2) 安全確保の実施方針	53

(3) 長寿命化の実施方針.....	53
(4) 民間活用（PPP/PFI等）活用の考え方.....	53
(5) 維持管理・修繕・更新等の実施方針.....	53
(6) 耐震化の実施方針.....	53
(7) 統合や廃止の推進方針.....	53
第7章. 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針.....	54
1. 公共建築物.....	54
2. インフラ資産.....	55
第8章. 計画の推進にあたって.....	56
1. 全庁的な取組体制の構築方針.....	56
(1) 庁内推進体制.....	56
(2) 村職員の啓発・意識付け.....	56
2. フォローアップの実施方針.....	57
(1) 個別施設ごとの推進計画・アクションプラン等の策定.....	57
(2) 計画の進行管理.....	57
3. 情報管理及び共有方策.....	57
(1) 公共施設等に関する情報の一元管理.....	57
(2) 村民等との情報共有・相互理解の醸成.....	57

第1章. 公共施設等総合管理計画の策定について

1. 公共施設等総合管理計画の位置付け

現在、座間味村では財政状況・人口問題が厳しさを増す中、公共施設（インフラ施設を含む）の老朽化が進んでいます。老朽化が進めば施設の倒壊または生活上のライフラインのストップ等、人命に関わる被害につながる危険性が高まります。施設を適切なタイミングで改修・更新（建替）を行うことは、村民の安心・安全な行政サービスを提供する上で最優先とすべき課題です。

しかし、それらの公共施設について順次建替えをおこなっていくことは、膨大な財政負担となって押し寄せることとなり、本村の今後の行財政運営に極めて大きな影響を及ぼす問題として深刻に受け止める必要があります。

これらの公共施設の実態をハード・ソフト両面からできるだけ正確に把握し、将来に生じる改修・更新投資額を予測し、財政的に次の世代に引き継げる公共施設の整備、改修・更新、管理運営のあり方を示すことが本計画の目的です。

2. 公共施設等総合管理計画で対象とする施設

(1) 基準日

「平成25年度末（平成26年3月31日）現在」とします。

(2) 対象範囲

本計画の対象は、公有財産にあたる、公民館、小中学校、村営住宅などの「公共建築物」と、道路、橋梁、上・下水道などの「インフラ資産」を含めた全ての公共施設とします。

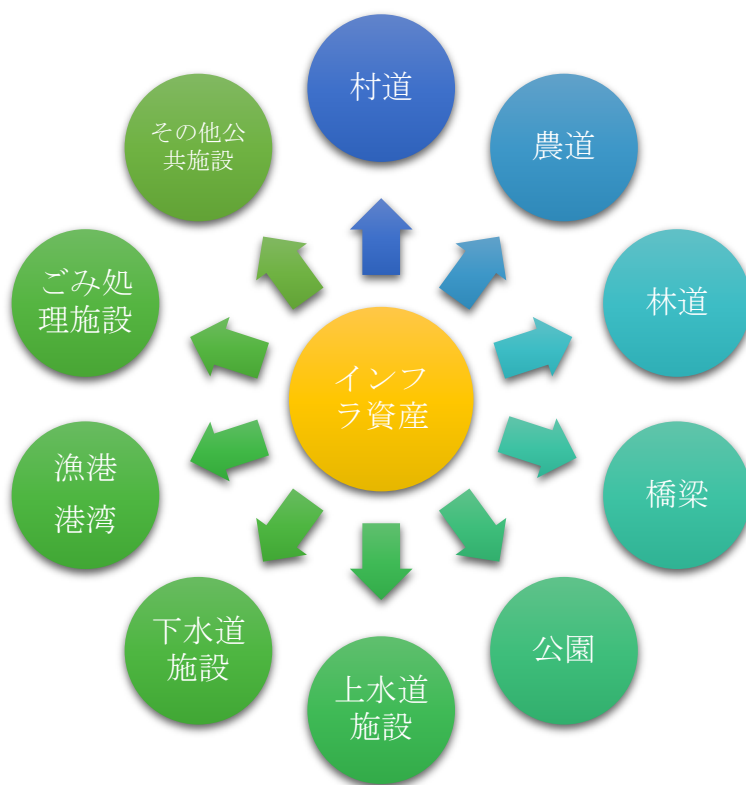
(3) 公共建築物

大分類	中分類	施設数	建物数
行政窓口機能	座間味村新庁舎	1	1
公民館・コミュニケーションセンター等	公民館・コミュニティセンター等	4	4
	離島振興総合センター	2	2
観光施設	ふれあい広場	1	7
	高月山園地	1	1
	森林体験交流促進施設・海洋体験施設・体験滞在交流施設	4	19
	農山村広場・公園施設・売店施設 その他（ニシバマ・シャワー室）	2	2
保健・福祉機能	保健指導所	1	2
	座間味村保健センター	1	1
学校教育機能	小中学校	3	18
	学校給食共同調理場	1	1
	児童・生徒交流センター	1	1
子育て支援機能	幼稚園	2	4
村営住宅	村営団地	17	17
その他広域対応施設	教員宿舎・教員住宅	3	15

	船舶離発着施設・旅客待合所	2	2
その他施設	畜産設備・農林水産物処理加工施設等	5	5
合計		51	102

(4) インフラ施設

インフラ施設としては、村道、農道、林道、橋梁、公園、上水道施設、下水道施設、漁港港湾、ごみ処理施設、その他公共施設を対象とします。



第2章. 村勢概要

1. 村の概要

座間味村は、県庁所在地である那覇市から西へ約 40km の東シナ海に点在する慶良間諸島のうち、西側にある大小 20 余りの島々からなる離島村です。

各島々への交通是那覇港との間にフェリー等による航路が村営により開設されており、片道 50 分ほどでアクセスできるほか^{ふかじしま}外地島には慶良間空港が設置されています。



2. 地形・地質

地形としては、全島の面積は小さく、崖が多く、湾入の多いリアス海岸を持つ多島となっています。内海に面する海岸は、砂浜を主体とする緩やかな地形ですが、外海側では急勾配で基岩が露出し、海食地形が発達しています。

地質としては琉球石灰岩と呼ばれる 60 万年～20 万年前のサンゴ礁やその周辺の有孔虫砂などが固まった石灰岩でできています。

周辺海域は透明度が世界屈指で高く、ケラマブルーと呼ばれ、一年を通じてダイバーが訪れるほどのダイビングスポットとなっています。

また、慶良間諸島および周辺のサンゴ礁地域は平成 17 年 11 月に国立公園に指定され、さらに平成 27 年 6 月には指定域が拡大され、今後も環境保全と観光の発展が期待されています。

第2章. 村勢概要

3. 気 候

平成21年度の年間平均気温は23.3℃、最高気温は25.6℃、最低気温は21.4℃、降水量は年間1640.5mmです。緯度が近い那覇市と同程度の気温で、1年を通して気温差が少ない亜熱帯性気候です。

4. 産 業

観光産業を基軸とした産業構造でダイビングや宿泊施設が充実しており、人口の92.6%が第三次産業に就業しています。

平成27年の入域観光客数は10万人を突破し、今後も観光客数は増加していくと予想されます。

世界でも屈指の透明度を誇る海と美しいサンゴ礁という優れた景観美を有する慶良間諸島ではダイビングやシュノーケリングが盛んで、ザトウクジラの繁殖海域であることから例年1月から3月はホエールウォッチングで多くの観光客が訪れます。

また、下の図表及びグラフから座間味村を訪れる観光客数は年々増加しており、観光シーズンである7月～8月にかけてピークをむかえていることがわかります。

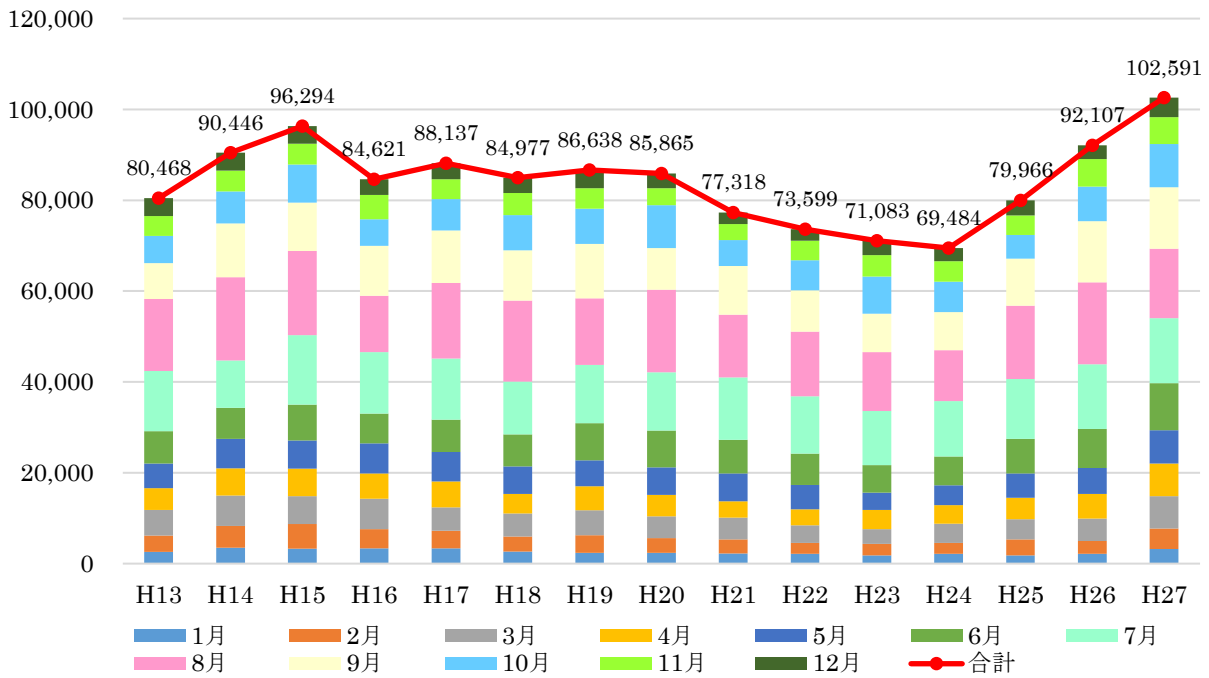
図表 座間味村月別・年度別観光入込客数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
H13年	2,619	3,531	5,658	4,816	5,447	7,106	13,209	15,853	7,940	5,998	4,331	3,960
H14年	3,524	4,764	6,691	6,021	6,493	6,808	10,422	18,346	11,832	7,081	4,554	3,910
H15年	3,272	5,438	6,120	6,048	6,222	7,903	15,316	18,506	10,629	8,386	4,586	3,868
H16年	3,385	4,231	6,695	5,524	6,653	6,542	13,519	12,454	10,957	5,826	5,404	3,431
H17年	3,343	3,874	5,141	5,737	6,473	7,143	13,454	16,623	11,558	6,889	4,404	3,498
H18年	2,687	3,246	5,089	4,299	6,061	7,069	11,597	17,890	11,018	7,761	4,878	3,382
H19年	2,365	3,850	5,501	5,290	5,715	8,227	12,778	14,661	11,977	7,811	4,444	4,019
H20年	2,406	3,196	4,820	4,735	6,065	8,093	12,832	18,142	9,193	9,452	3,690	3,241
H21年	2,245	3,097	4,760	3,652	6,105	7,424	13,700	13,805	10,746	5,721	3,512	2,551
H22年	2,164	2,421	3,874	3,528	5,359	6,875	12,584	14,281	9,089	6,619	4,269	2,536
H23年	1,776	2,546	3,301	4,163	3,817	6,049	11,926	13,018	8,428	8,162	4,766	3,131
H24年	2,138	2,452	4,176	4,125	4,321	6,382	12,186	11,175	8,442	6,676	4,537	2,874
H25年	1,842	3,468	4,487	4,724	5,303	7,660	13,129	16,198	10,368	5,207	4,270	3,310
H26年	2,150	2,866	4,897	5,416	5,734	8,602	14,255	17,981	13,478	7,610	6,111	3,007
H27年	3,188	4,574	7,110	7,150	7,347	10,382	14,315	15,281	13,501	9,548	5,921	4,274

資料提供：座間味村 観光船舶班

第2章. 村勢概要

図表 座間味村観光入込客数推移グラフ（単位：人）



5. 特産

農業では主な生産物としてらっきょう、パパイヤ、肉用牛、肉用ヤギ、水産業では主にモズクを生産しています。

第2章. 村勢概要

6. 人口と世帯

(1) 総人口

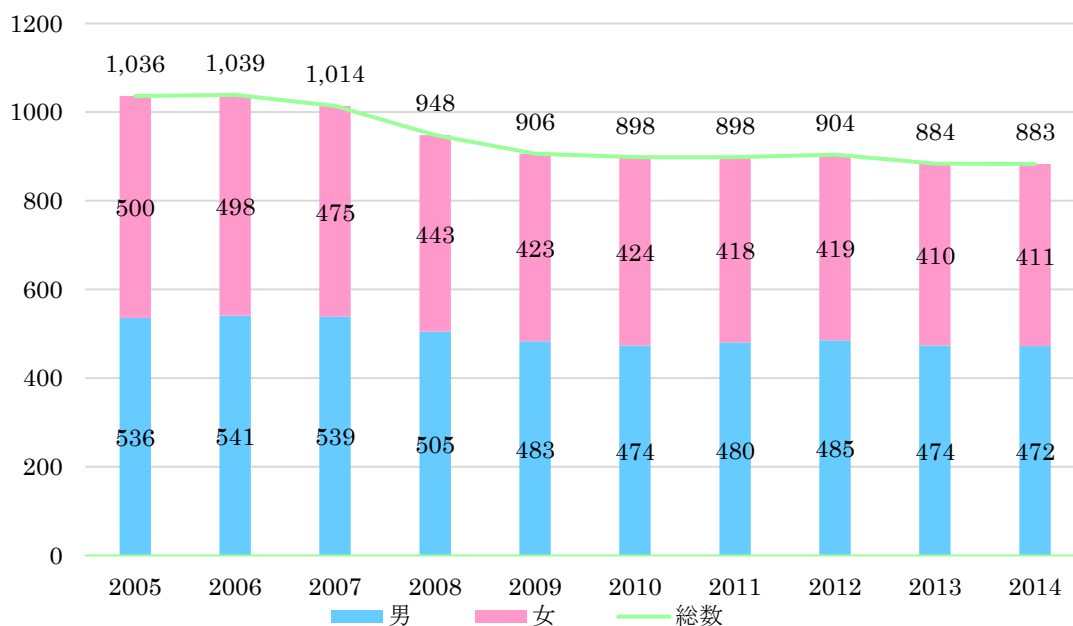
過去の人口推移は、2005年（平成17年）3月末時点での1,036人から全体的に減少傾向にあり、2014年（平成26年）3月末時点で約15%減の883人と推移しています。

図表 人口の推移（単位：人）

	総人口	男	女	対前年度増減
				人口
2005年（平成17年）	1,036	536	500	
2006年（平成18年）	1,039	541	498	3
2007年（平成19年）	1,014	539	475	▲25
2008年（平成20年）	948	505	443	▲66
2009年（平成21年）	906	483	423	▲42
2010年（平成22年）	898	474	424	▲8
2011年（平成23年）	898	480	418	0
2012年（平成24年）	904	485	419	6
2013年（平成25年）	884	474	410	▲20
2014年（平成26年）	883	472	411	▲1

資料：座間味村総務福祉課より

図表 人口の推移（単位：人）



第2章. 村勢概要

(2) 人口動態 (自然動態・社会動態)

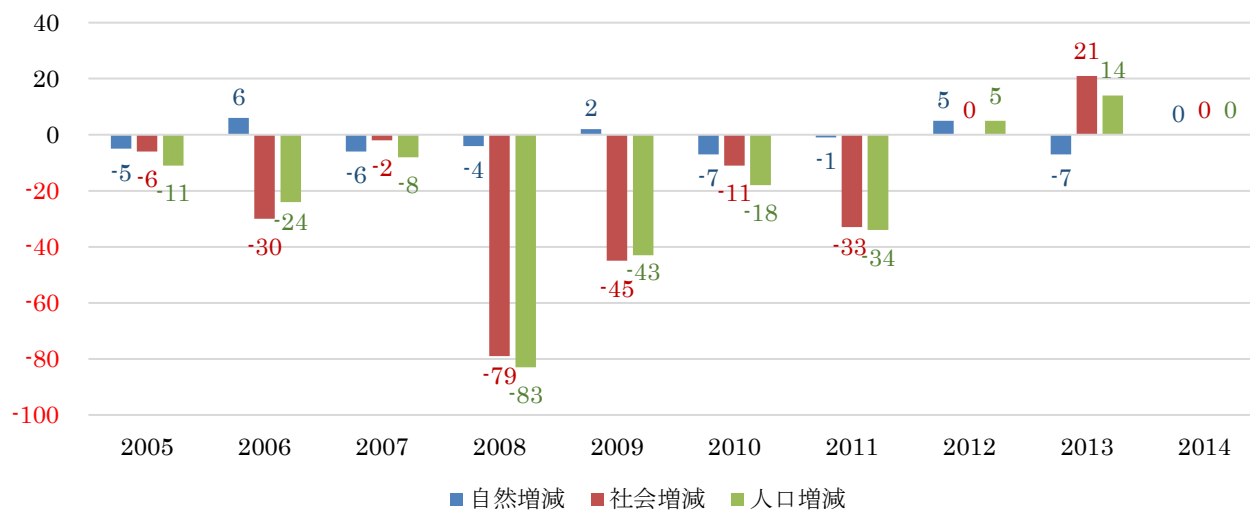
過去10年間の人口動態(自然動態・社会動態)は減少している状況です。特に2008年度(平成20年)は転出等の影響が大きく、人口が83人減少しています。

図表 人口動態 (自然動態・社会動態) (単位:人)

年度	自然動態			社会動態			人口増減
	出生	死亡	自然増減	転入等	転出等	社会増減	
2005年(平成17年)	7	12	▲5	109	115	▲6	▲11
2006年(平成18年)	24	18	6	208	238	▲30	▲24
2007年(平成19年)	10	16	▲6	72	74	▲2	▲8
2008年(平成20年)	7	11	▲4	90	169	▲79	▲83
2009年(平成21年)	13	11	2	83	128	▲45	▲43
2010年(平成22年)	7	14	▲7	90	101	▲11	▲18
2011年(平成23年)	11	12	▲1	71	104	▲33	▲34
2012年(平成24年)	12	7	5	110	110	0	5
2013年(平成25年)	7	14	▲7	112	91	21	14
2014年(平成26年)	11	11	0	99	99	0	0

資料: 座間味村・総務福祉課 (転入転出集計表)

図表 人口動態 (自然動態・社会動態) (単位:人)



※自然動態とは、年間の出生と死亡に伴う人口の動き

※社会動態とは、転入と転出に伴う人口の動き

※「9ページ:人口の推移」と「10ページ:人口動態」は基礎資料の年月が異なるため、人口増減は一致しません

(3) 年代別人口

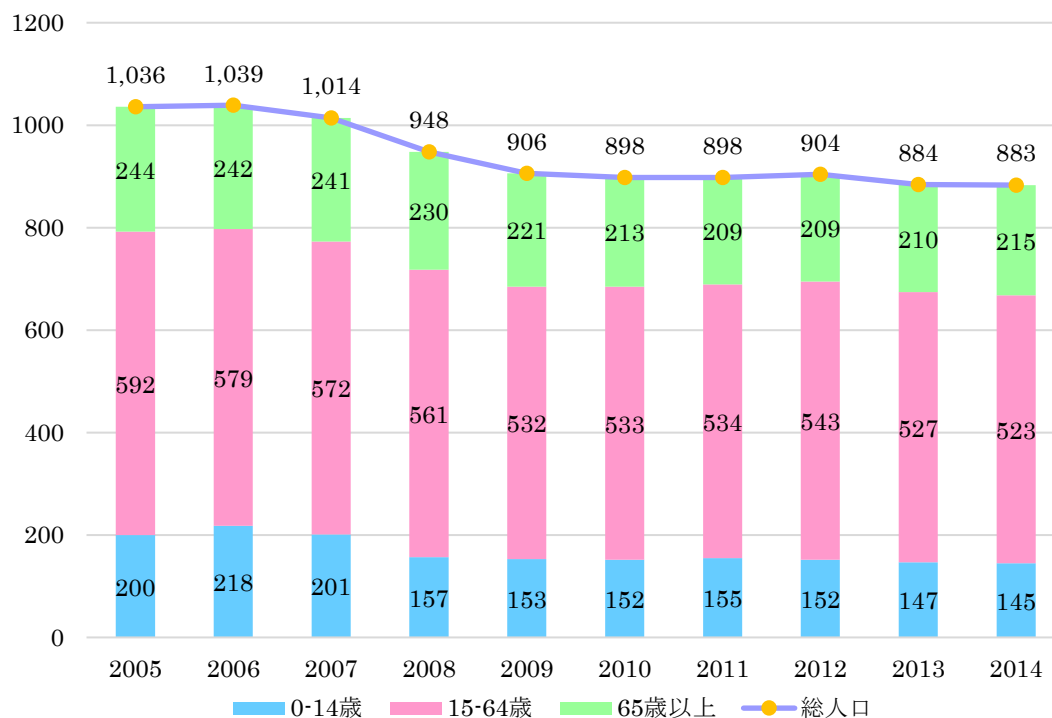
過去10年間の年代別人口の推移は、年少人口(0~14歳)は、2005年(平成17年)3月末時点で200人、人口に占める割合は19.3%でした。2014年(平成26年)3月末時点では、145人、割合は16.4%と2.9%減少しています。生産年齢人口(15~64歳)は、2005年(平成17年)3月末時点で592人、人口に占める割合は57.1%でした。2013年(平成25年)3月末時点では、523人、割合は59.2%と割合では増加していますが、人数で見ると69人減少しました。老年人口(65歳以上)は、2005年(平成17年)3月末時点で244人、人口に占める割合は23.6%でした。2014年(平成26年)3月末時点では、215人、割合は24.3%と0.7%増加しています。

図表 年代別人口 (単位:人)

	総人口	0~14歳		15~64歳		65歳以上	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合
2005年(平成17年)	1,036	200	19.3%	592	57.1%	244	23.6%
2006年(平成18年)	1,039	218	21.0%	579	55.7%	242	23.3%
2007年(平成19年)	1,014	201	19.8%	572	56.4%	241	23.8%
2008年(平成20年)	948	157	16.6%	561	59.2%	230	24.3%
2009年(平成21年)	906	153	16.9%	532	58.7%	221	24.4%
2010年(平成22年)	898	152	16.9%	533	59.4%	213	23.7%
2011年(平成23年)	898	155	17.3%	534	59.5%	209	23.3%
2012年(平成24年)	904	152	16.8%	543	60.1%	209	23.1%
2013年(平成25年)	884	147	16.6%	527	59.6%	210	23.8%
2014年(平成26年)	883	145	16.4%	523	59.2%	215	24.3%

資料: 座間味村総務福祉課より

図表 年代別人口 (単位:人)



第2章. 村勢概要

(4) 将来人口の見込み

国立社会保障・人口問題研究所（通称：社人研）の推計では、2010年（平成22年）の総人口997人から以降2020年（平成42年）で総人口950人を割り込む949人となり、2030年（平成52年）に941人、2040年（平成62年）には936人となり、30年間で61人減少する見込みです。

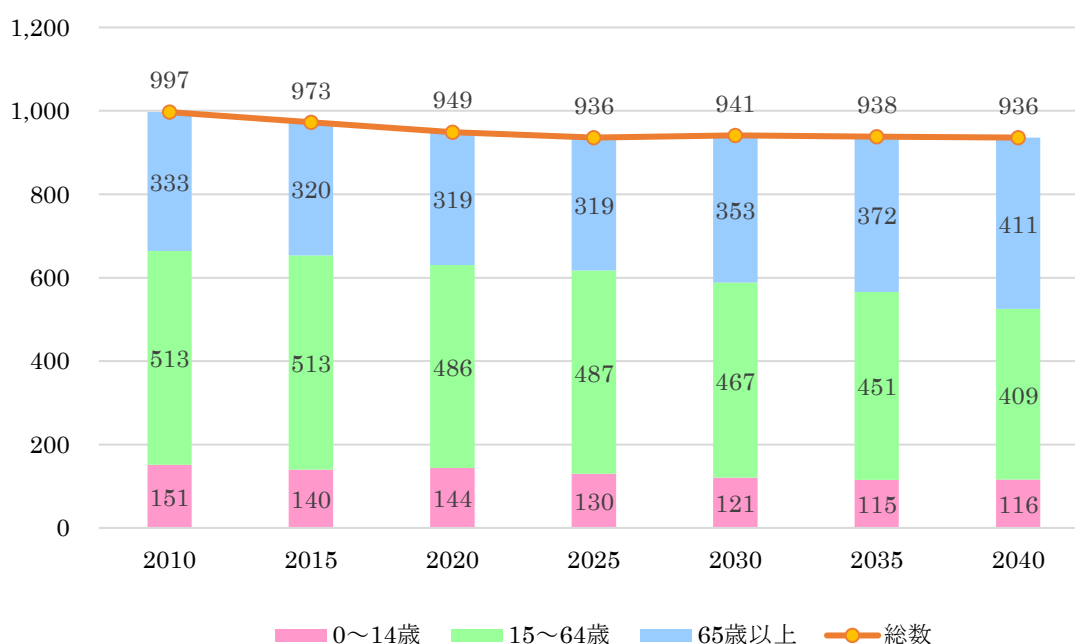
年代別では、年少人口（0～14歳）が2010年（平成22年）の151人から2040年（平成52年）に116人に減少し、総人口に占める割合も15.1%から12.4%に低下すると見込まれます。生産年齢人口（15～64歳）は、2010年（平成22年）の513人から2040年（平成52年）に409人に減少し、総人口に占める割合も51.5%から43.7%に低下すると見込まれます。老年人口（65歳以上）は、2010年（平成22年）の333人から2040年（平成52年）に411人に増加し、総人口に占める割合も33.4%から43.9%に上昇すると見込まれます。

図表 将来人口の推移（単位：人）

		2010年 (H22年)	2015年 (H27年)	2020年 (H32年)	2025年 (H37年)	2030年 (H42年)	2035年 (H47年)	2040年 (H52年)
0～14歳	人口	151	140	144	130	121	115	116
	割合	15.1%	14.4%	15.2%	13.9%	12.9%	12.3%	12.4%
15～64歳	人口	513	513	486	487	467	451	409
	割合	51.5%	52.7%	51.2%	52.0%	49.6%	48.1%	43.7%
65歳以上	人口	333	320	319	319	353	372	411
	割合	33.4%	32.9%	33.6%	34.1%	37.5%	39.7%	43.9%
総数		997	973	949	936	941	938	936

資料：国立社会保障・人口問題研究所

図表 将来人口の推移（単位：人）



※過去の推計データに基づいており、現在の人口と一致しません

第2章. 村勢概要

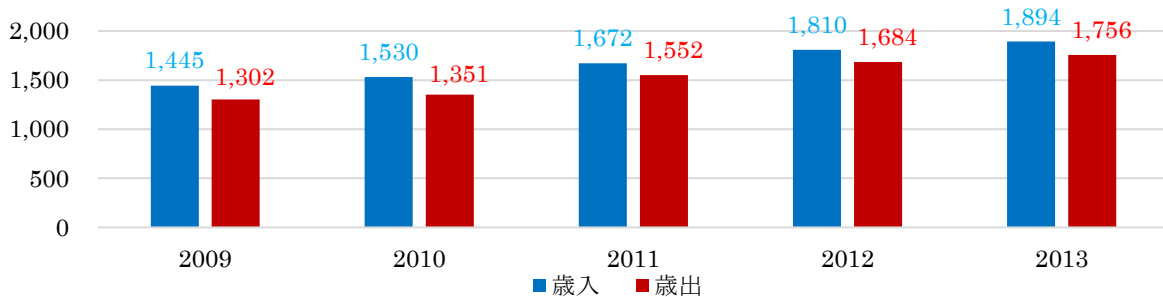
7. 財政・行政運営

(1) 歳入歳出

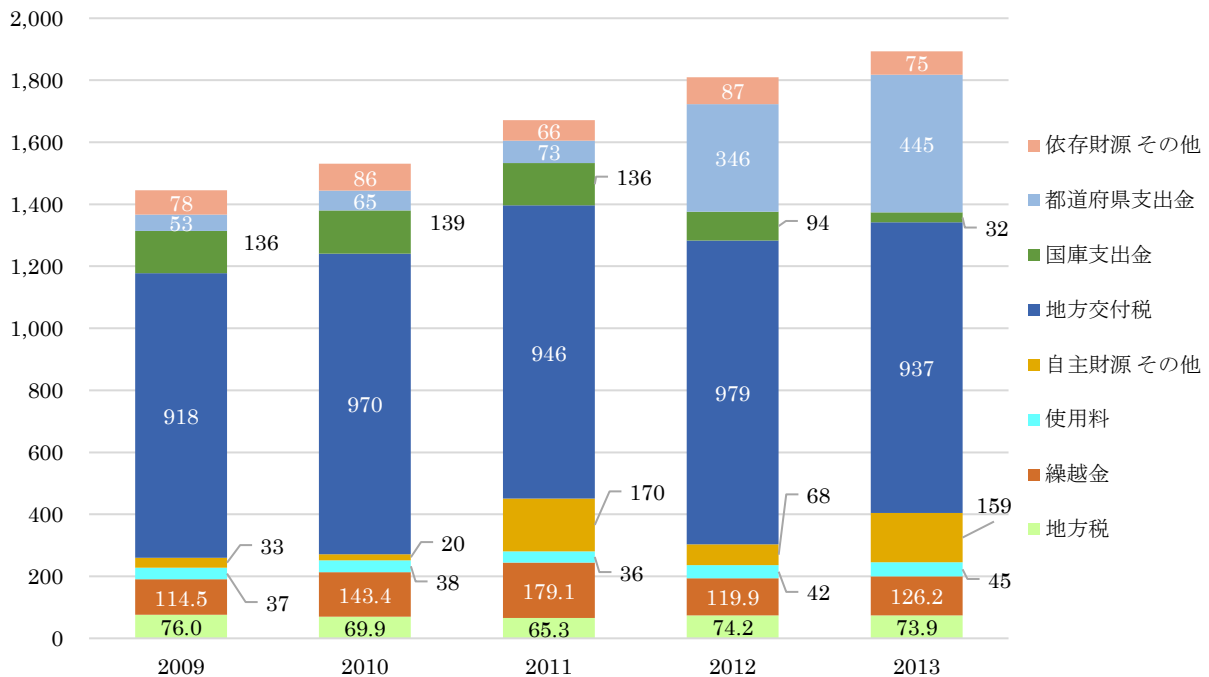
普通会計における歳入と歳出は、2009年度（平成21年度）から2013年度（平成25年度）も間に年々増加している状況です。2013年度（平成25年度）は歳入が約18億9千4百万円、歳出が約17億5千6百万円となっております。

2013年度（平成25年度）の歳入の内訳は、地方交付税が49.5%と最も多く、次いで、都道府県支出金が23.5%となっています。これを自主財源（地方税、繰越金、繰入金、諸収入等）と依存財源（地方交付税、地方債、国庫支出金、都道府県支出金、地方消費税交付金等）に分類すると、自主財源が21.4%、依存財源が78.6%となり、依存財源の占める割合が高くなっています。地方交付税の縮減・見直しなどもあり、自主財源の確保をさらに推し進める必要があります。

図表 決算状況（歳入、歳出の推移）（単位：百万円）

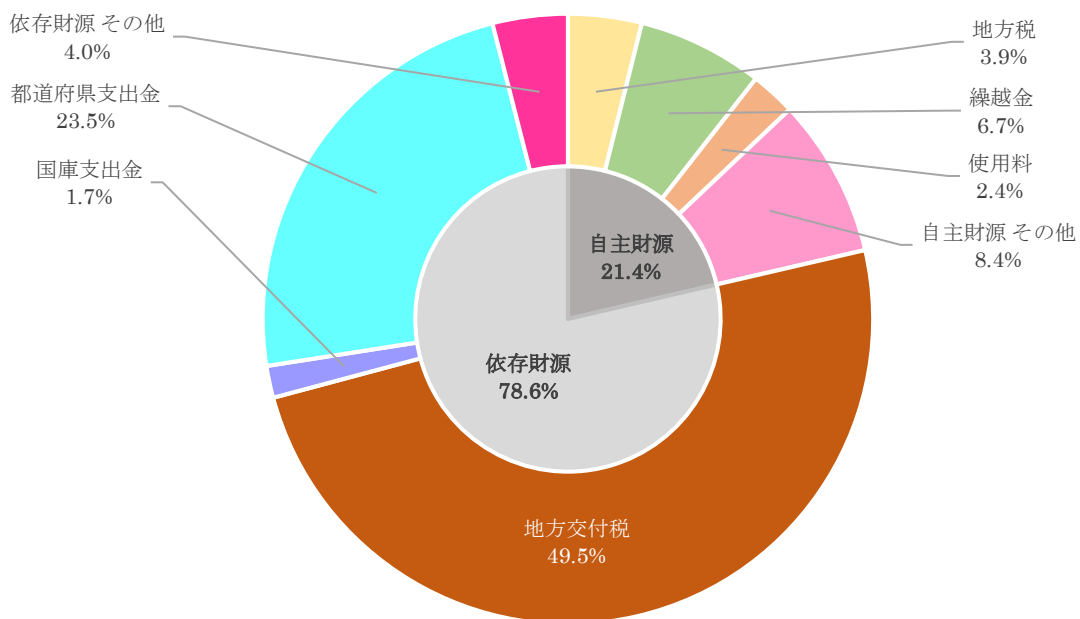


図表 決算状況歳入の内訳（単位：百万円）



第2章. 村勢概要

図表 歳入の内訳（自主財源と依存財源の構成比、平成25年度）（単位：％）



第3章. 公共施設の現状

1. 公共建築物

(1) 過去の整備量(延床面積)

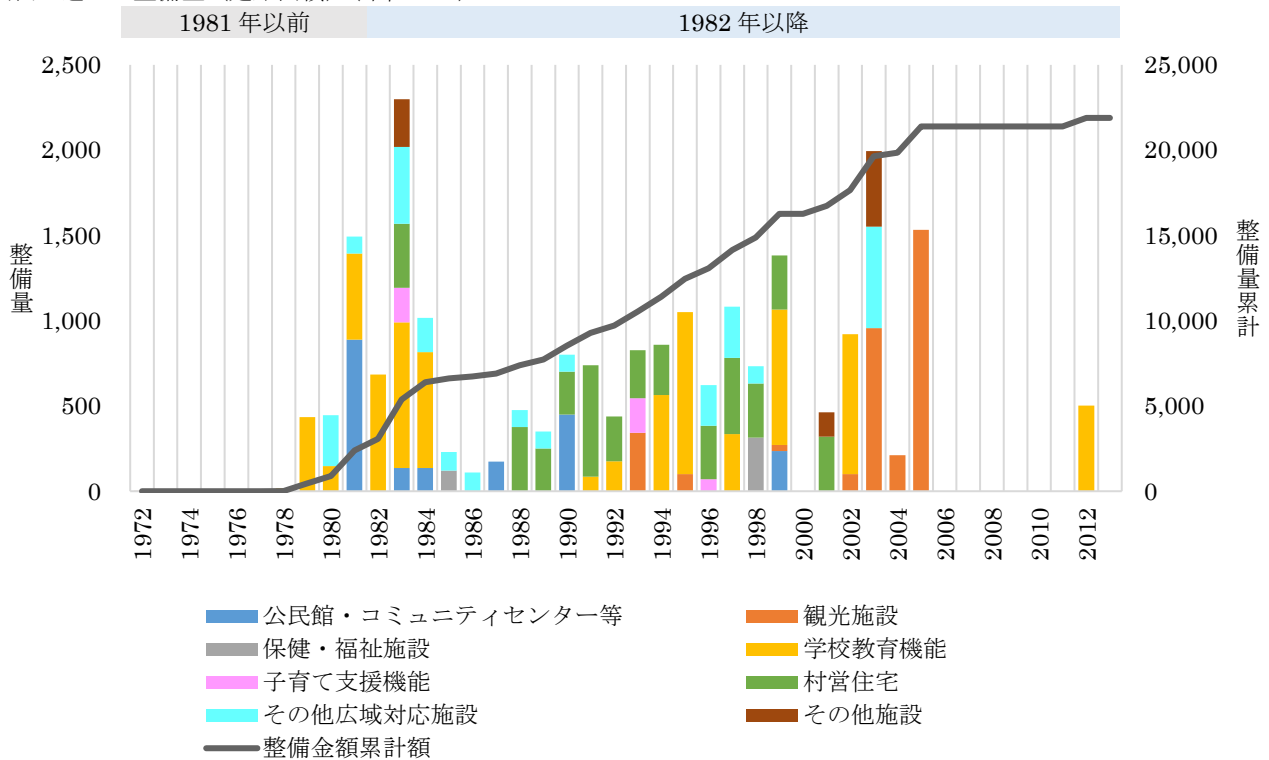
座間味村の公共建築物の総面積は約2.2万㎡であり、村民1人あたり約24.8㎡となっています。整備のピークとしては、1983年に最初のピークを迎え、2003年に2回目のピークを迎えます。

最初のピークである1983年に注目してみると、慶留間小中学校の校舎・屋内運動場の854㎡、座間味小中学校教員宿舎の450㎡、座間味1団地の376㎡などがあります。

2回目のピークである2003年(16ページ黄色部分)に注目してみると、観光施設である体験滞在交流促進施設が約956㎡整備されました。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 過去の整備量(延床面積)(単位:㎡)



第3章. 公共施設の現状

図表 過去の整備量（延床面積）（単位：㎡）

	行政窓口機能	公民館・コミュニティセンター等	観光施設	保健・福祉機能	学校教育機能	子育て支援機能	村営住宅	その他広域対応施設	その他施設	整備量累計
1972									1	1
1973										1
1974										1
1975										1
1976										1
1977										1
1978					17					18
1979					434					452
1980					147			299		898
1981		888			506			100		2,392
1982					685					3,077
1983		136			854	203	376	450	280	5,376
1984		136			680			200		6,392
1985				121				110		6,623
1986								110		6,733
1987		174								6,907
1988							376	100		7,383
1989							251	100		7,734
1990		450					251	100		8,535
1991					86		654			9,274
1992					176		262			9,712
1993			342			203	282			10,539
1994					565		293			11,397
1995			100		950					12,447
1996						70	313	240		13,071
1997					336		446	300		14,152
1998				315			317	100		14,885
1999		236	35		794		317			16,267
2000										16,267
2001							320		143	16,730
2002			100		820					17,650
2003			956					596	443	19,645
2004			212							19,857
2005			1,532							21,389
2006										21,389
2007										21,389
2008										21,389
2009										21,389
2010										21,389
2011										21,389
2012					502					21,891
2013										21,891
合計	0	2,020	3,278	436	7,552	476	4,458	2,805	867	21,891

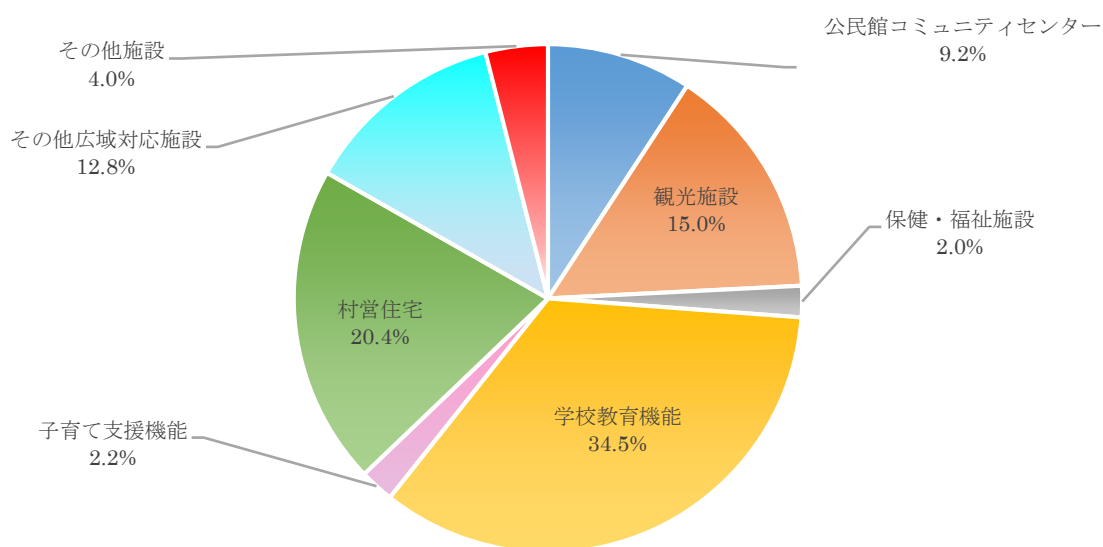
第3章. 公共施設の現状

(2) 機能別延床面積

総延床面積：21,891 m²に対して、各々の機能別施設の割合は、学校教育施設が34.5%と一番高く、次に村営住宅で20.4%になっています。

※行政窓口機能は平成27年現在建て替え中のため、0 m²と表記いたしました。

図表 機能別延床面積



図表 機能別延床面積

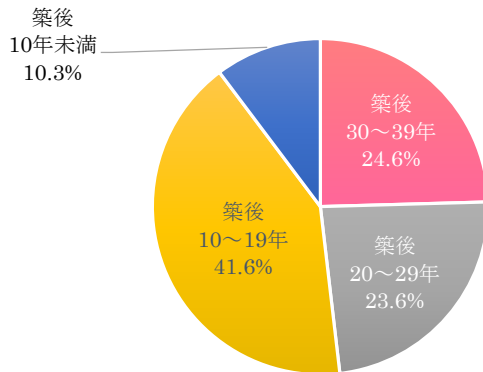
機能別施設	延床面積	比率
行政窓口機能	—	—
公民館・コミュニティセンター等	2,020	9.2%
観光施設	3,278	15.0%
保健・福祉機能	436	2.0%
学校教育機能	7,552	34.5%
子育て支援機能	476	2.2%
村営住宅	4,458	20.4%
その他広域対応施設	2,805	12.8%
その他施設	867	4.0%
合計	21,891 m ²	100%

注) m²単位で表記し、四捨五入をしているため、合計が合わない場合があります。

第3章. 公共施設の現状

(3) 施設老朽化の現状と課題

図表 建築後年数による割合

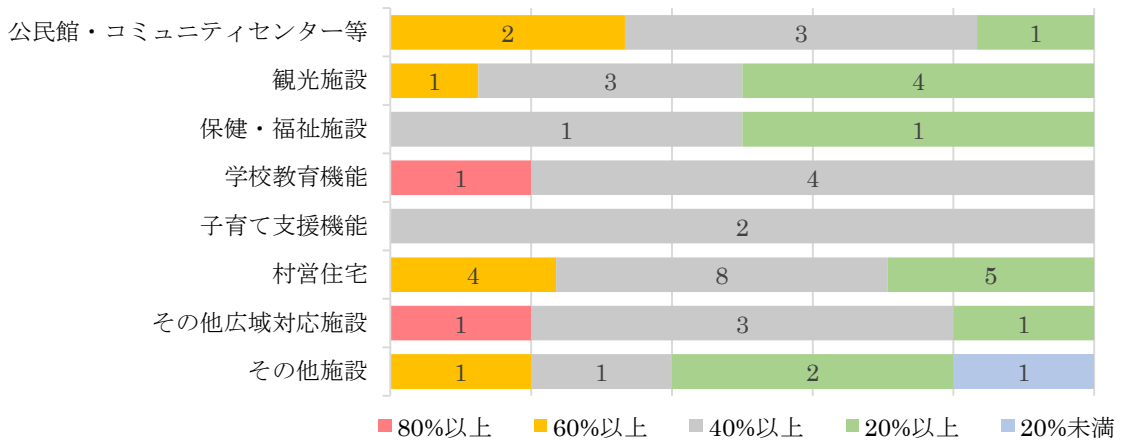


建築後年数による割合は、

- ・ 築後 30～39 年は、約 24.6%
 - ・ 築後 20～29 年は、約 23.6%
 - ・ 築後 10～19 年は、約 41.6%
 - ・ 築後 10 年未満は、約 10.3%
- となっております。

図表 施設老朽化比率

機能別施設	件数	80%以上	60%以上	40%以上	20%以上	20%未満	平均比率
行政窓口機能		—	—	—	—	—	—
公民館・コミュニティセンター等	6	—	2	3	1	—	56.2%
観光施設	8	—	1	3	4	—	41.2%
保健・福祉機能	2	—	—	1	1	—	32.2%
学校教育機能	5	1	—	4	—	—	47.5%
子育て支援機能	2	—	—	2	—	—	52.4%
村営住宅	17	—	4	8	5	—	50.0%
その他広域対応施設	5	1	—	3	1	—	46.0%
その他施設	5	—	1	1	2	1	48.7%
合計施設数	50	2	8	25	14	1	

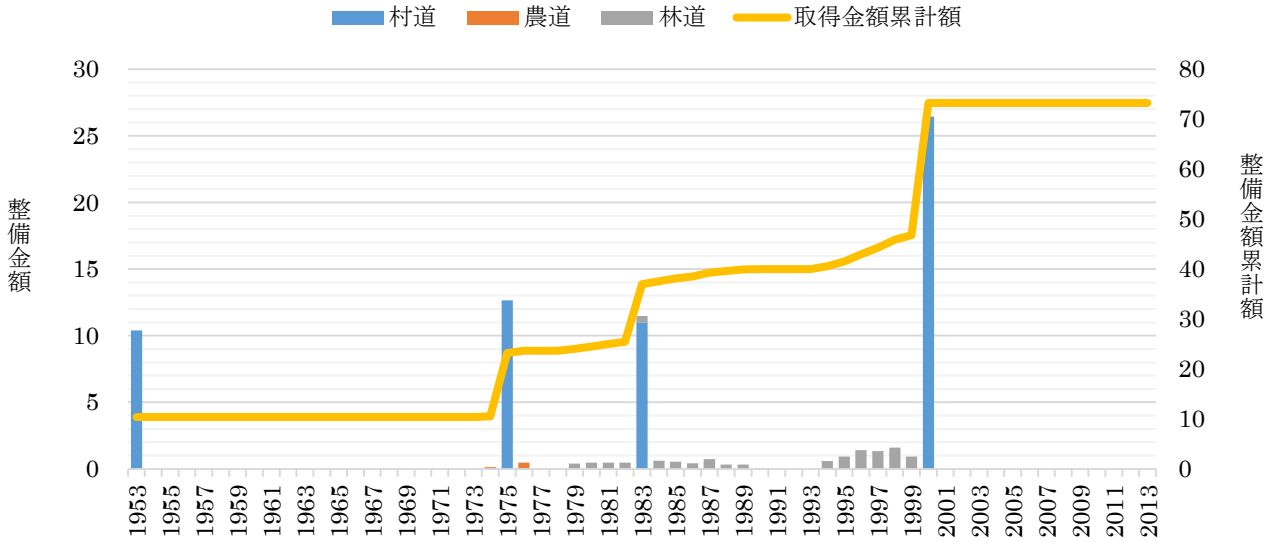


第3章. 公共施設の現状

2. 道 路

過去の道路（村道・農道・林道）の年度別整備状況は下図のようになります。

図表 道路全体の年度別整備金額（単位：億円）

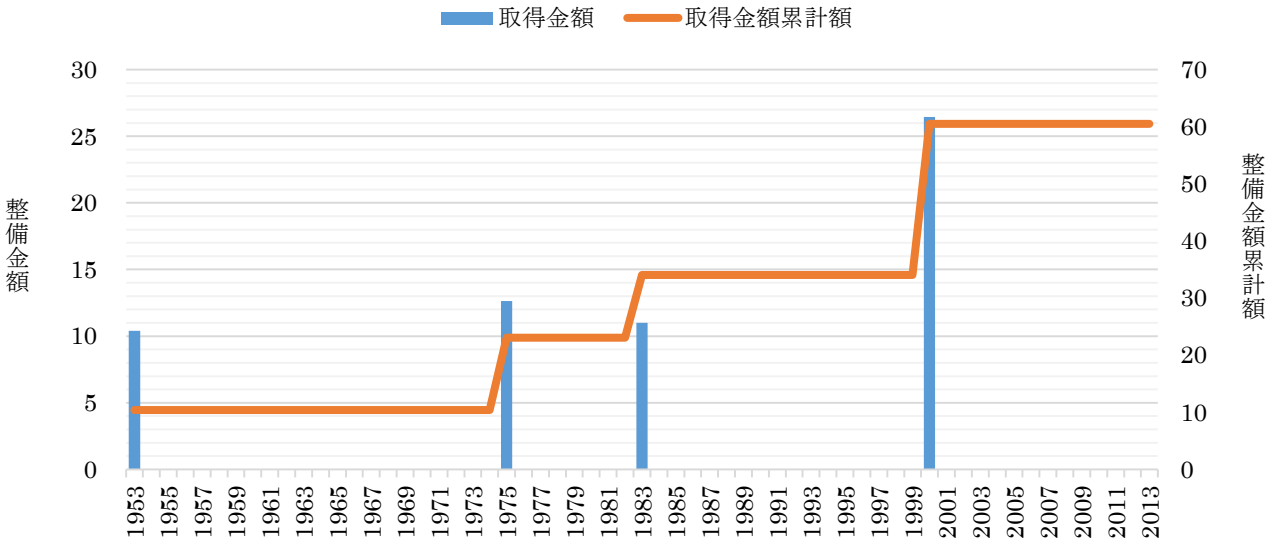


出典：固定資産台帳

2-1. 村 道

村道整備に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

図表 村道の年度別整備金額（単位：億円）



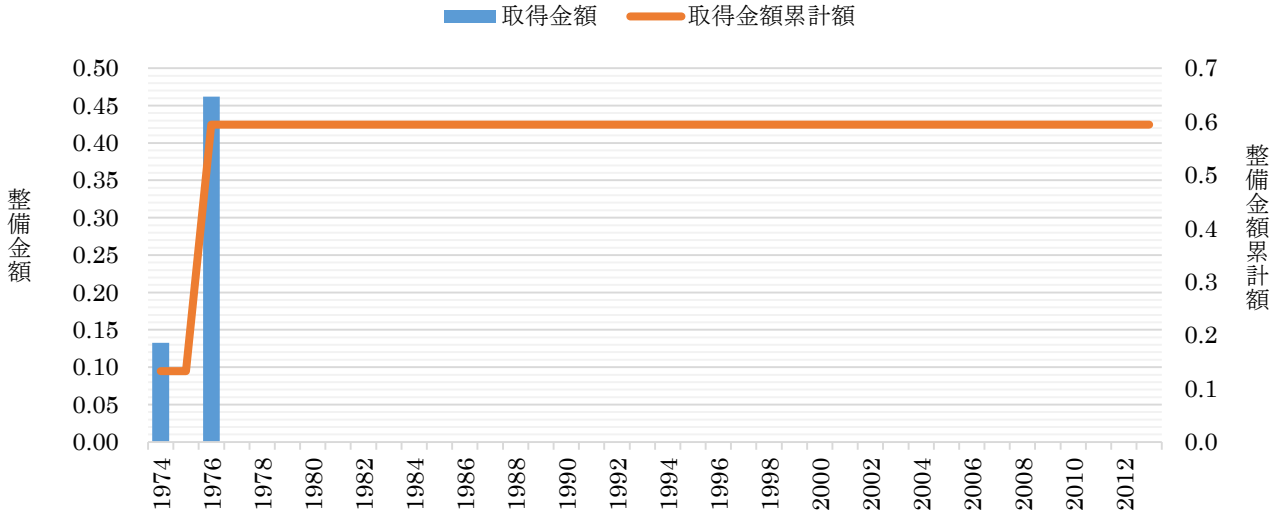
出典：固定資産台帳

第3章. 公共施設の現状

2-2. 農 道

農道整備に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

図表 農道の年度別整備金額（単位：億円）

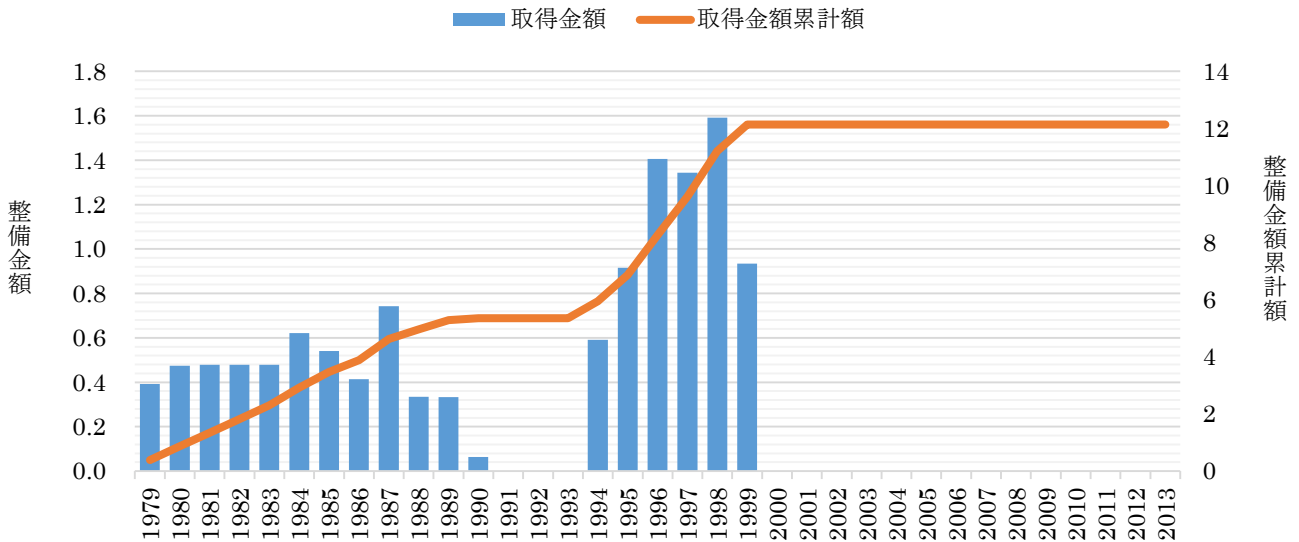


出典：固定資産台帳

2-3. 林 道

林道に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

図表 林道の年度別整備金額（単位：億円）



出典：固定資産台帳

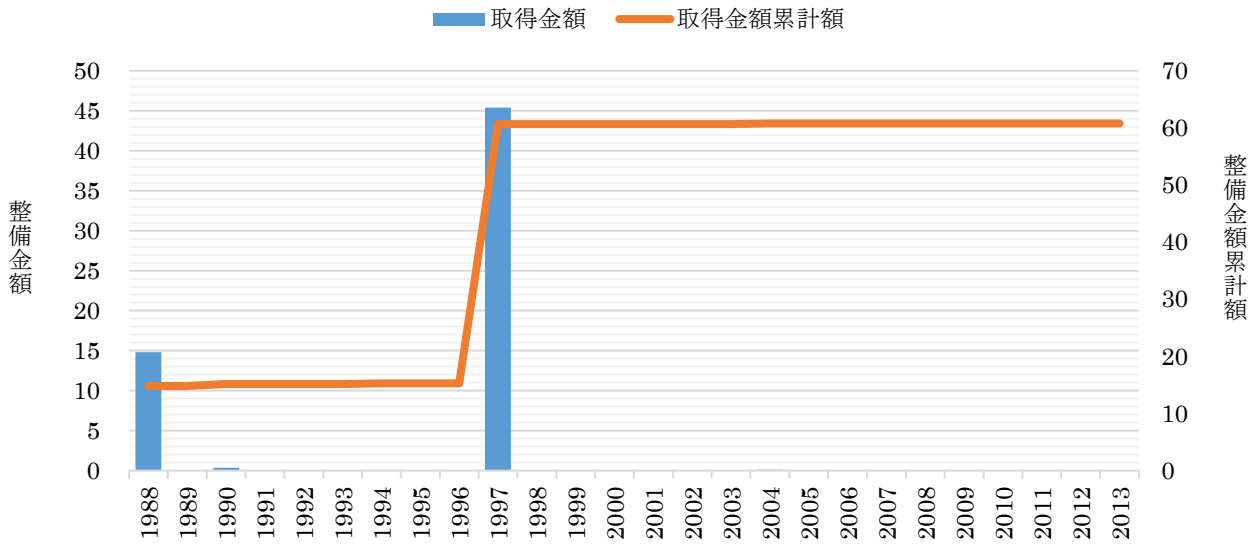
第3章. 公共施設の現状

3. 橋 梁

橋梁整備に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

1988年（昭和63年）には慶留間橋が約14億7千6百万円で整備され、1997年（平成9年）には阿嘉大橋が約45億4千1百万円で整備されました。

図表 橋梁の年度別整備金額（単位：億円）

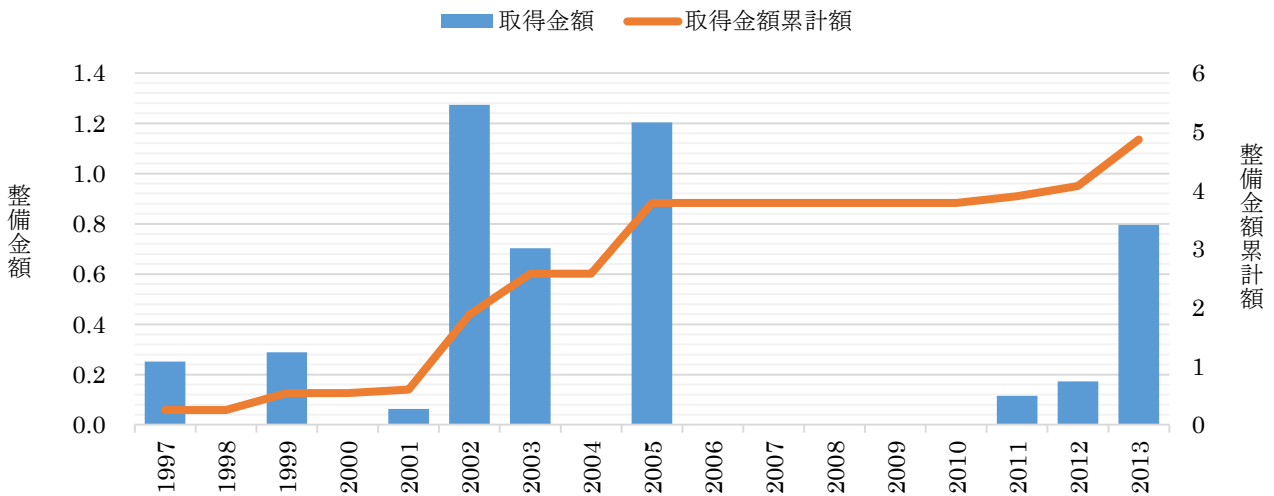


出典：固定資産台帳

4. 公 園

公園整備に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

図表 公園の年度別整備金額（単位：億円）



出典：固定資産台帳

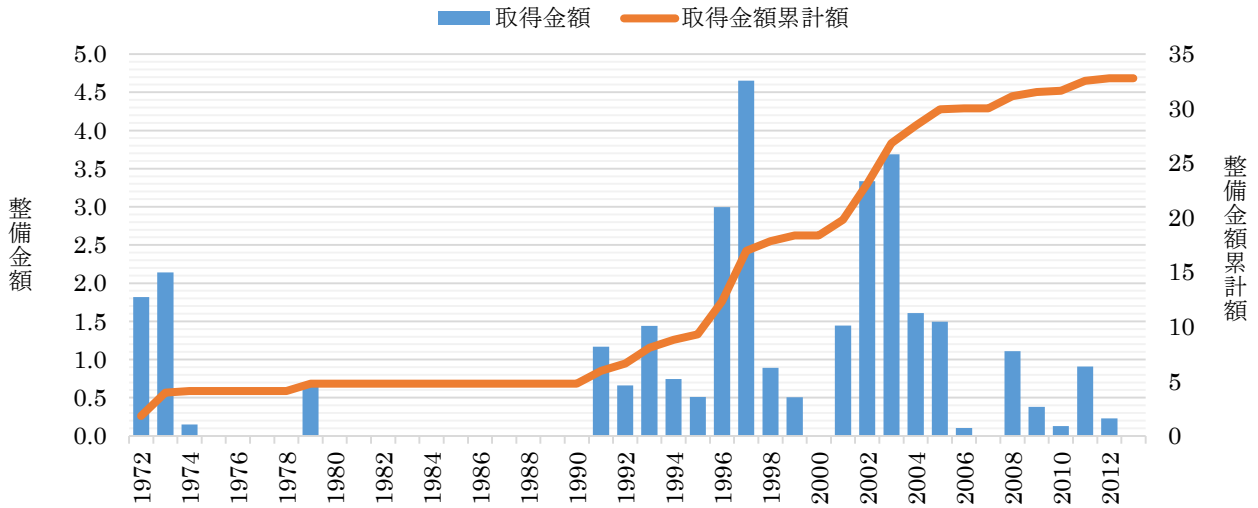
第3章. 公共施設の現状

5. 上水道施設

上水道施設に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

整備年度が最も多い1997年（平成9年）には阿嘉・慶留間地区の導水施設・貯水施設等が約4億6千5百万円をかけて整備されました。

図表 農業施設の年度別整備金額（単位：億円）



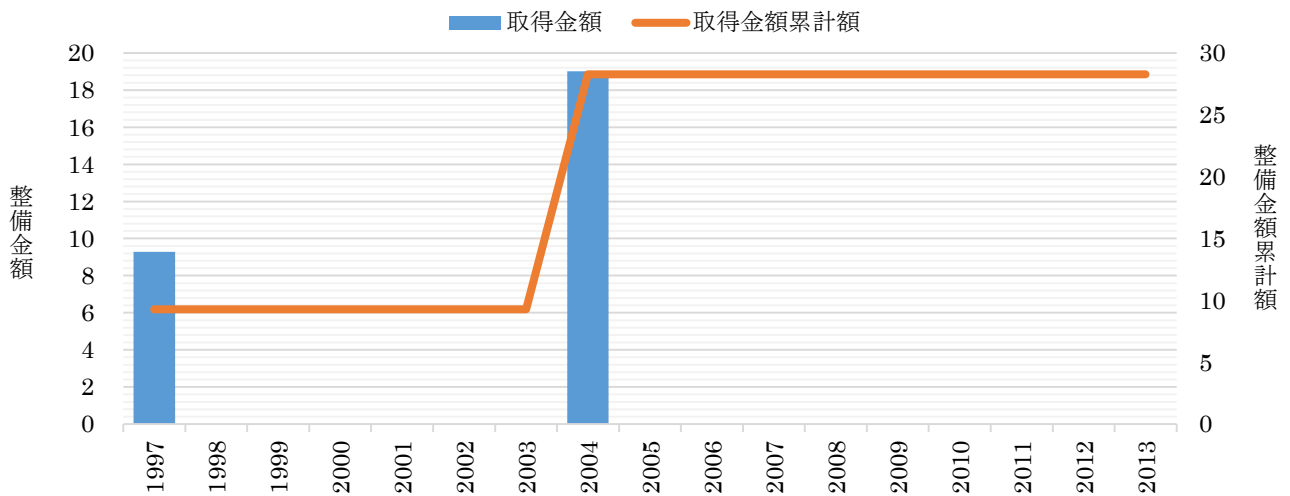
出典：固定資産台帳

6. 下水道施設

下水道施設に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

1997年（平成9年）には座間味区の下水道施設が約7億2千万円で、阿真地区の下水道施設が約2億円で整備され、2004年（平成16年）には阿佐区で約5億8千万円、阿嘉区で約10億円、慶留間区で約2億9千万円をかけて整備されました。

図表 下水道施設の年度別整備金額（単位：千円）



出典：固定資産台帳

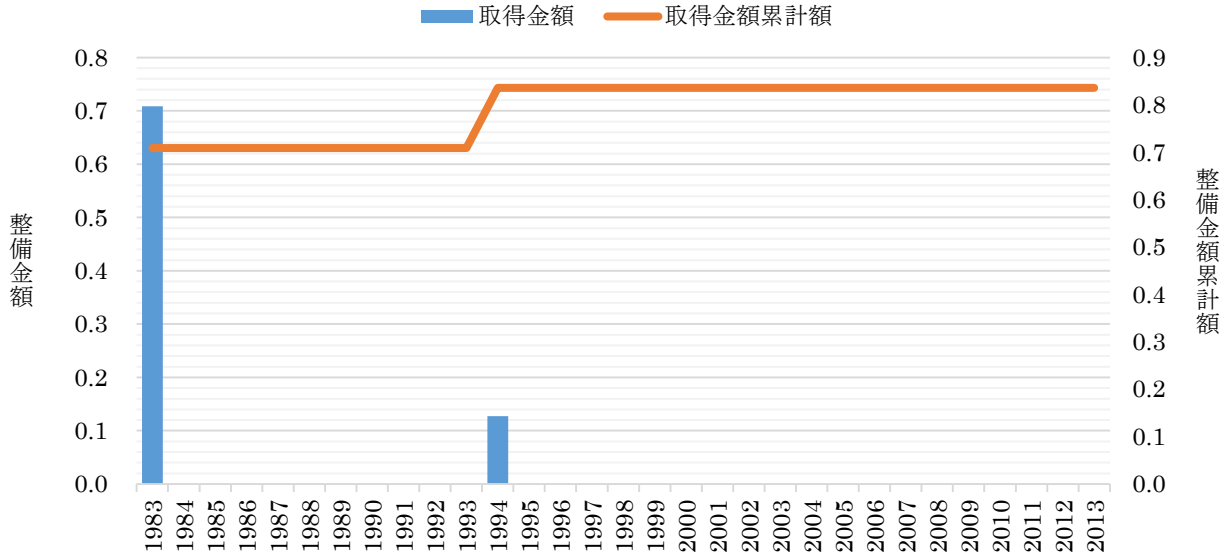
第3章. 公共施設の現状

7. 漁港・港湾

漁港・港湾に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

1983年（昭和58年）には阿真漁港が約7千万円をかけて整備され1994年（平成6年）には座間味沿岸に並型漁礁が約1千2百万円をかけて整備されました。

図表 下水道施設の年度別整備金額（単位：億円）



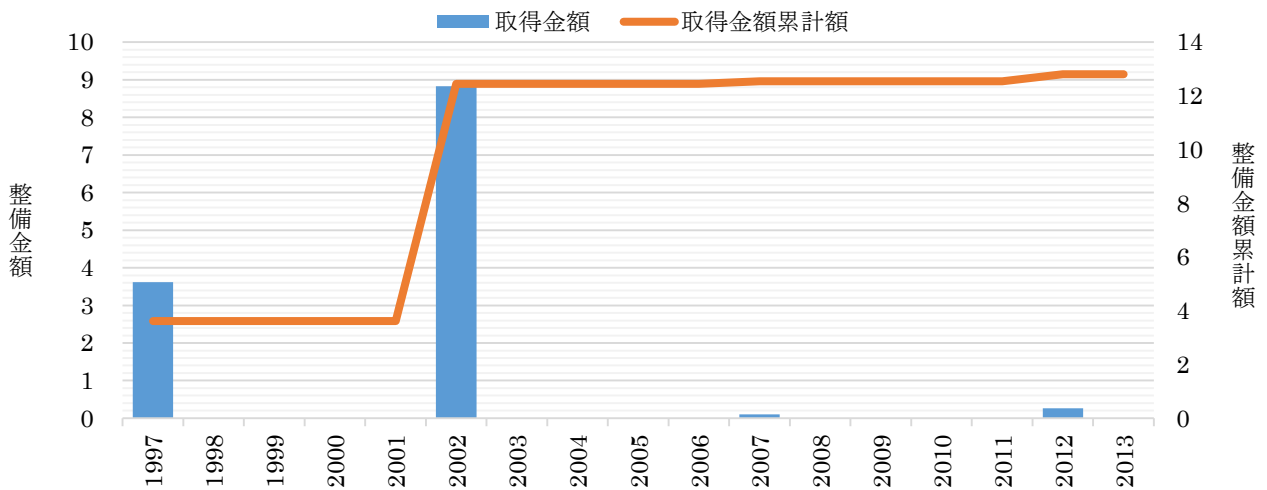
出典：固定資産台帳

8. ごみ処理施設

ごみ処理施設に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

1997年（平成9年）には阿嘉島クリーンセンターが約3億6千万円をかけて整備され、2002年（平成14年）には座間味村クリーンセンターが約8億8千万円をかけて整備されました。

図表 下水道施設の年度別整備金額（単位：億円）



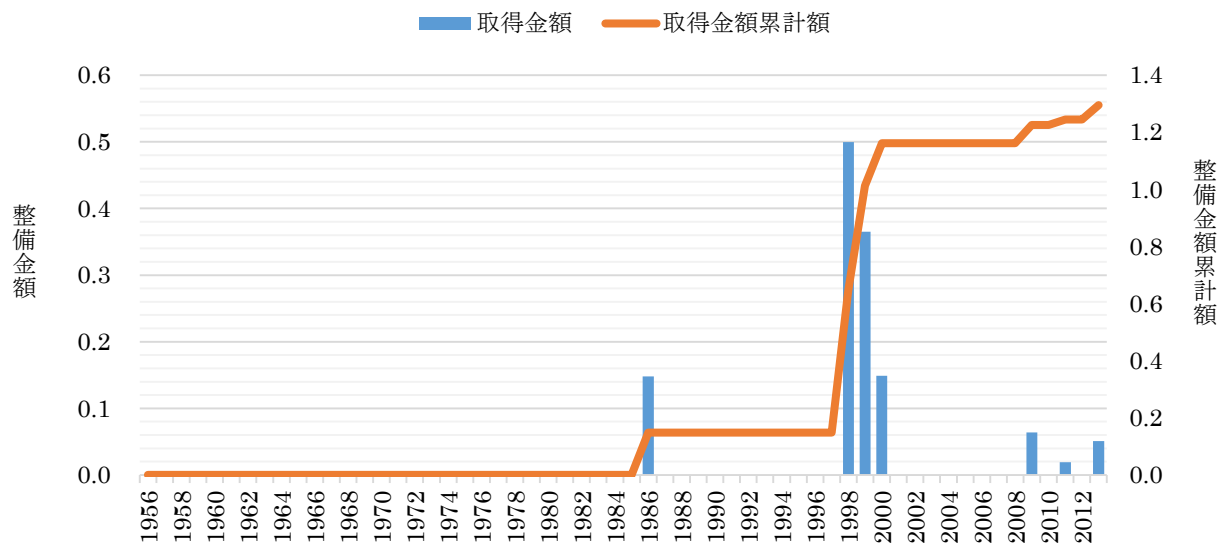
出典：固定資産台帳

9. その他公共施設

その他公共施設に関しては、過去の整備金額を整理すると下図のようになります。

1998年（平成10年）には神の浜展望台とふれあい施設展望台が約5千万円をかけて整備されました。

図表 下水道施設の年度別整備金額（単位：億円）



出典：固定資産台帳

第4章. 機能別の現状と分析

1. 行政窓口機能

(1) 施設概要

①施設一覧

本村では旧庁舎（昭和41年建築）を平成26年に解体し、新庁舎を「PPP（官民連携）」の手法により建築しました。取得日は平成28年3月で、取得金額は約10億1千万円です。

※本計画基準日の平成25年度末時点で未建設、以下平成27年度建築時の情報を記載しています

※PPP・・・官と民が連携して公共サービスを提供する手法全般で、今回は一定期間リース料を支払ったのちに建物を取得するリース契約方式を指しています。（リース期間中はコスト平準化及び庁舎の維持管理実施を民間企業に実施してもらえることがメリット）

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味村新庁舎	座間味109	2015年度（平成27年度）	1,543	1,224.75	3	単独

②設置目的等

施設の設置目的は次のようになっています。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味村新庁舎	—

③運営状況

図表 運営状況

地区	施設名称	運営時間	休所（館）日	運営形態	年間開館日数
座間味	座間味村新庁舎	—	—	—	—

④老朽化状況

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用 年数	経過年 数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味村新庁舎	2015年度 （平成27年度）	1,011,592,800	38	—	0	0%

第4章. 機能別の現状と分析

2. 公民館・コミュニティセンター等（会議・研修・展示・ホール機能）

（1）施設概要

①施設一覧

公民館・コミュニティセンター等は6施設あります。座間味区に2施設、阿真区、阿佐区、阿嘉区、慶留間区にそれぞれ1施設ずつあります。

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味コミュニティセンター	座間味 1	1999年度（平成11年度）	1,097	236	3	単独
	座間味村離島振興総合センター	座間味 95	1981年度（昭和56年度）	453	888	2	単独
阿真	阿真公民館	阿真 532-1	1984年度（昭和59年度）	4,393	136	1	単独
阿佐	阿佐公民館	阿佐 1	1983年度（昭和58年度）	510	136	1	単独
阿嘉	阿嘉離島振興総合センター	阿嘉 50	1990年度（平成02年度）	1,174	450	1	単独
慶留間	慶留間公民館	慶留間 50	1987年度（昭和62年度）	472	174	1	単独

②設置目的等

施設の設置目的は次のようになっています。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味コミュニティセンター	地域社会の発展と社会教育の振興、地域住民の福祉増進を図り、まとまりのある地域社会を形成するため
	座間味村離島振興総合センター	産業及び社会教育の振興、保健福祉の増進、生活改善の推進等研修の場などの多目的総合施設
阿真	阿真公民館	地域社会の発展と社会教育の振興、地域住民の福祉増進を図り、まとまりのある地域社会を形成するため。
阿佐	阿佐公民館	
阿嘉	阿嘉離島振興総合センター	産業及び社会教育の振興、保健福祉の増進、生活改善の推進等研修の場などの多目的総合施設
慶留間	慶留間公民館	地域社会の発展と社会教育の振興、地域住民の福祉増進を図り、まとまりのある地域社会を形成するため

③運営状況

運営状況は次のようになっております。

図表 運営状況

地区	施設名称	運営時間	休所（館）日	運営形態	年間開館日数
座間味	座間味コミュニティセンター	9：00～22：00	無し	直営	365
	座間味村離島振興総合センター				
阿真	阿真公民館				
阿佐	阿佐公民館				
阿嘉	阿嘉離島振興総合センター				
慶留間	慶留間公民館				

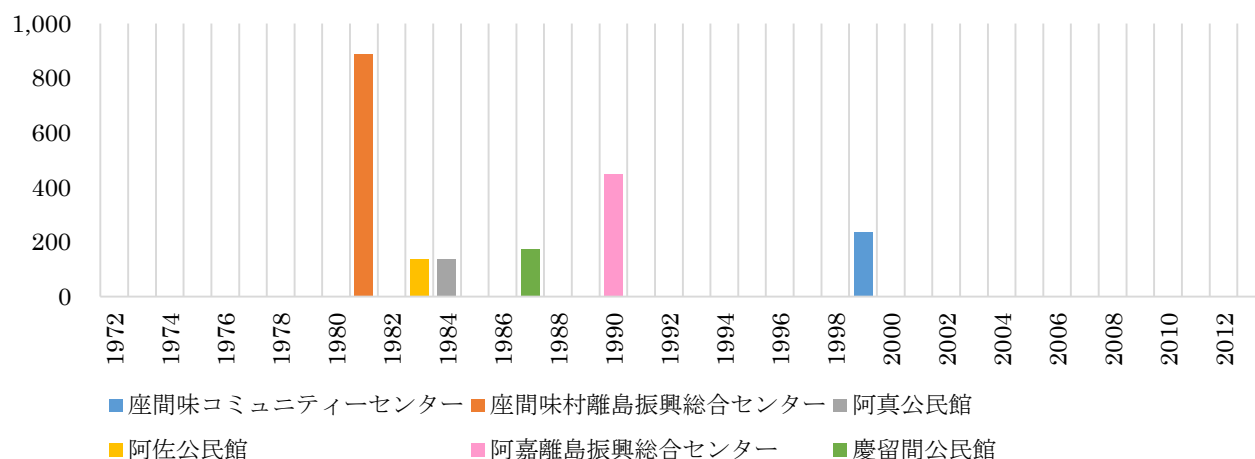
第4章. 機能別の現状と分析

④ 築年別整備状況

1981年（昭和56年）以前に建築された施設は「座間味離島振興総合センター」ですが、新耐震基準に適合している施設となっています。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況(単位：㎡)



⑤ 老朽化状況

「座間味村離島振興総合センター」と「阿佐公民館」は老朽化率が60%以上（更新検討施設：図表内“黄”にて表示）となっています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味コミュニティセンター	平成11年度	63,720,000	50	14	17,841,600	28.0%
	座間味村離島振興総合センター	昭和56年度	181,900,000	50	32	130,853,696	71.9%
阿真	阿真公民館	昭和59年度	19,000,000	50	29	11,020,000	58.0%
阿佐	阿佐公民館	昭和58年度	18,800,000	50	30	11,280,000	60.0%
阿嘉	阿嘉離島振興総合センター	平成02年度	96,305,000	50	23	44,300,300	46.0%
慶留間	慶留間公民館	昭和62年度	47,850,000	50	26	24,882,000	52.0%

3. 観光施設

(1) 施設概要

①施設一覧

観光施設は8施設あります。座間味区にある「ふれあい施設」は平成27年度現在立替中のため省略しました。

阿佐区にある「体験農村施設」と「体験滞在交流促進施設」は所在地区と利用目的が同じなので、「体験滞在交流促進施設」としてまとめて表示しています。

図表 施設一覧

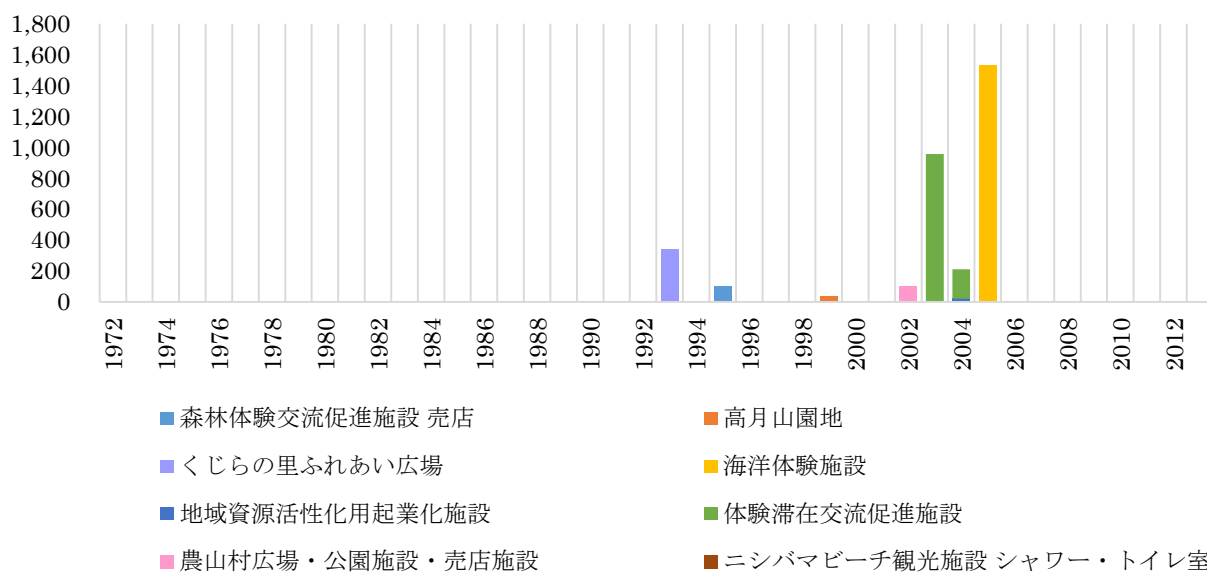
地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独複合
座間味	森林体験交流促進施設 売店	座間味 1763	1995年度 (平成07年度)	—	100	1	単独
	高月山園地	座間味島内	1991年度 (平成03年度)	—	35	—	—
阿真	くじらの里ふれあい広場	阿真 633	1993年度 (平成05年度)	—	342	—	—
	海洋体験施設	阿真 636-2	2005年度 (平成17年度)	—	1,532	—	—
阿佐	地域資源活性化用起業化促進施設	阿佐大浜地内	2004年度 (平成16年度)	—	20	—	—
	体験滞在交流促進施設	阿佐大浜 439	2003年度 (平成15年度)	—	1,148	—	—
阿嘉	農山村広場・公園施設・売店施設	阿嘉 1563	2002年度 (平成14年度)	—	100	—	—
	ニシバマビーチ観光施設 シャワー・トイレ室	阿嘉内	1996年度 (平成08年度)	—	—	—	—

②築年別整備状況

1981年(昭和56年)以前に建築された施設はありません。すべての施設が新耐震基準となっております。

※耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況 (単位: ㎡)



第4章. 機能別の現状と分析

③老朽化状況

老朽化の状況は8施設の内、1施設（くじらの里ふれあい広場）が老朽化比率60%以上（更新検討施設：図表内“黄”にて表示）となっています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	森林体験交流促進施設 売店	1995年度 (平成07年度)	22,400,000	39	18	10,483,200	46.8%
	高月山園地	1991年度 (平成03年度)	36,500,001	—	22	13,797,000	37.8%
阿真	くじらの里ふれあい広場	1993年度 (平成05年度)	204,867,000	22	20	161,726,183	78.9%
	海洋体験施設	2005年度 (平成17年度)	343,961,000	38	8	71,400,200	20.8%
阿佐	地域資源活性化用起業化促進施設	2004年度 (平成16年度)	4,407,337	38	9	1,070,982	24.3%
	体験滞在交流促進施設	2003年度 (平成15年度)	358,647,000	15	10	143,732,416	40.1%
阿嘉	農山村広場・公園施設・売店施設	2002年度 (平成14年度)	22,400,000	39	11	6,406,400	28.6%
	ニシバマビーチ観光施設 シャワー・トイレ室	1996年度 (平成08年度)	11,700,000	38	17	5,370,300	45.9%

第4章. 機能別の現状と分析

4. 保健・福祉機能

(1) 施設概要

①施設一覧

保健・福祉機能は、2施設あります。座間味区にある「保健指導所」と阿嘉区にある「座間味村保健センター」です。

図表 施設一覧

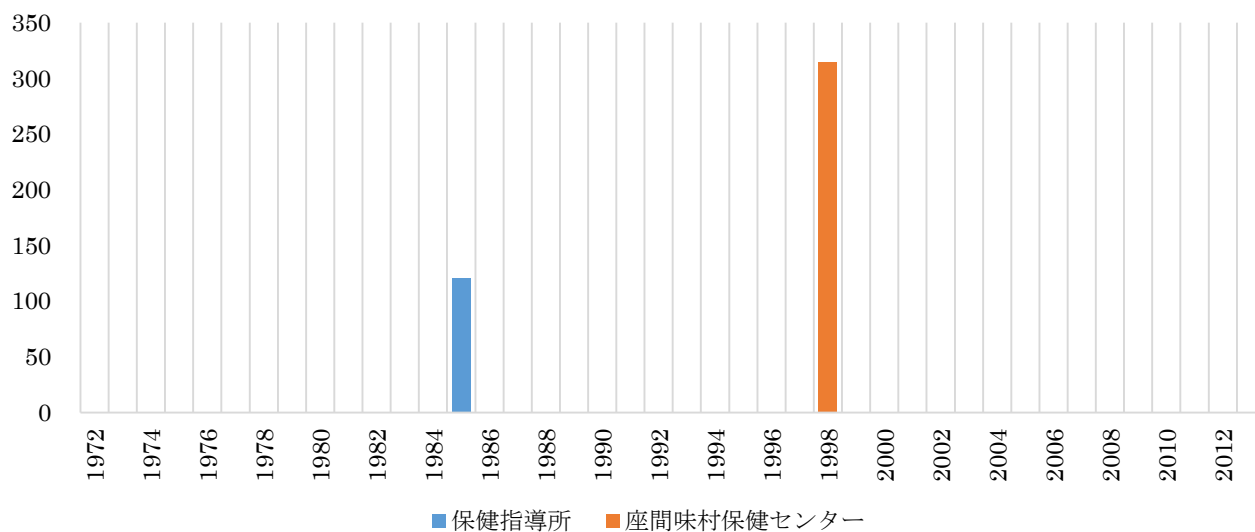
地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	保健指導所	座間味 122	1985年度 (昭和60年度)	—	121	—	—
阿嘉	座間味村保健センター	阿嘉 89	1998年度 (平成10年度)	—	315	—	単独

②築年別整備状況

1981年（昭和56年）以前に建築された施設はありません。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



③老朽化状況

2施設とも老朽化比率60%未満となっています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却 累計額	老朽化比率
座間味	保健指導所	1985年度 (昭和60年度)	21,707,000	47	28	9,499,160	43.8%
阿嘉	座間味村保健センター	1998年度 (平成10年度)	116,007,000	50	15	34,802,100	30.0%

第4章. 機能別の現状と分析

5. 学校教育機能

5-1. 小中学校

(1) 施設概要

①施設一覧

小中学校は全部で3施設あります。座間味区にある「座間味小中学校」と阿嘉区にある「阿嘉小中学校」、慶留間区にある「慶留間小中学校」です。

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味小中学校	座間味 943	1982年度(昭和57年度)	9,023	1,905	3	
阿嘉	阿嘉小中学校	阿嘉 316	1979年度(昭和54年度)	1,084	2,640	2	単独
慶留間	慶留間小中学校	慶留間 82	1978年度(昭和53年度)	6,310	1,805	2	

②設置目的等

設置目的は次のようになっていきます。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味小中学校	小学校：心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする 中学校：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的とする
阿嘉	阿嘉小中学校	
慶留間	慶留間小中学校	

③運営状況

すべての施設が年間200日利用できます。

図表 運営状況

地区	施設名称	運営時間	休所(館)日	運営形態	年間開館日数
座間味	座間味小中学校	8:00~16:45	土・日・祝	直営	200
阿嘉	阿嘉小中学校				
慶留間	慶留間小中学校				

第4章. 機能別の現状と分析

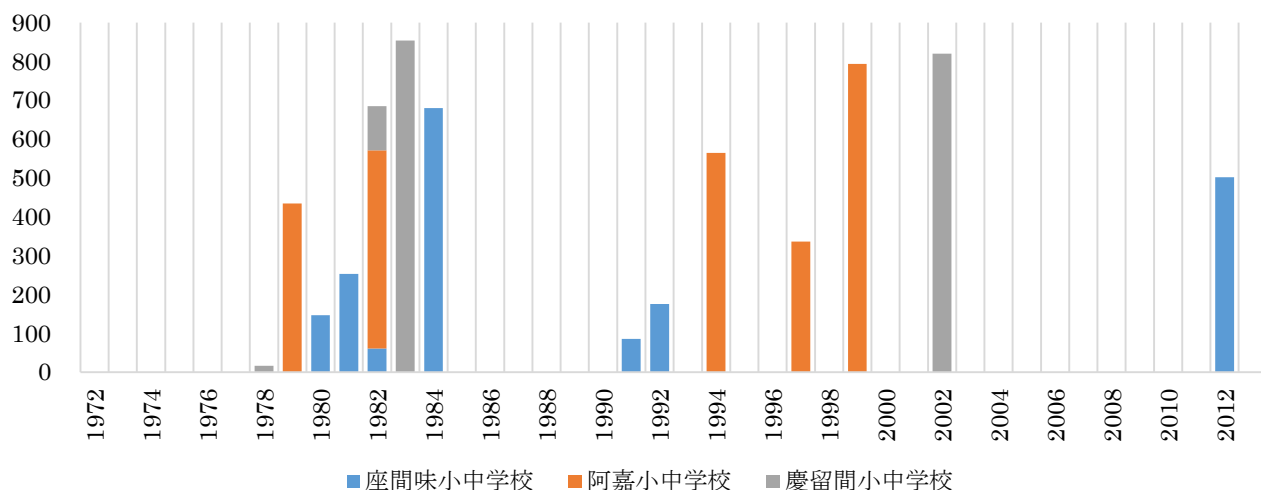
④築年別整備状況

各施設の老朽化状況は次のとおりです。

1981年（昭和56年）以前に建築された施設は「阿嘉小中学校の校舎の一部」「慶留間小中学校の校舎の一部」です。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



⑤建物状況

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	座間味小中学校	6	6	—	—	—
阿嘉	阿嘉小中学校	6	5	—	1	—
慶留間	慶留間小中学校	6	5	—	1	—

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オストメイト	ベビーシート	有無	台数	
座間味	座間味小中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿嘉	阿嘉小中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—
慶留間	慶留間小中学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑥老朽化状況

全体で見ると、3施設とも老朽化比率60%未満ですが、個別にみると、すべての施設に老朽化比率60%以上（更新検討施設：図表内“黄”にて表示）の建物があり、更新計画を策定する時期に来ています。各施設の老朽化状況は次のとおりです。

1. 「座間味小中学校」...1982年度（昭和57年度）に建築されている校舎は、ひび割れや、剥離があり危険な状況にあります。※小学校は2012年度（平成24年度）、中学校は2015年度（平成27年度）に一部改築済み
2. 「阿嘉小中学校」...1979年度（昭和54年）に建築されている校舎はひび割れや、剥離があり危険な状況にあります。
3. 「慶留間小中学校」...1978年度（昭和53年）に建築されている校舎は、ひび割れ、剥離等があり危険な状況にあります。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味小中学校	1982年度 (昭和57年度)	464,227,000	47	31	207,148,153	44.6%
阿嘉	阿嘉小中学校	1979年度 (昭和54年度)	586,275,000	47	34	280,608,190	47.9%
慶留間	慶留間小中学校	1978年度 (昭和53年度)	397,075,000	47	35	189,317,370	47.7%

第4章. 機能別の現状と分析

(2) 利用の実態

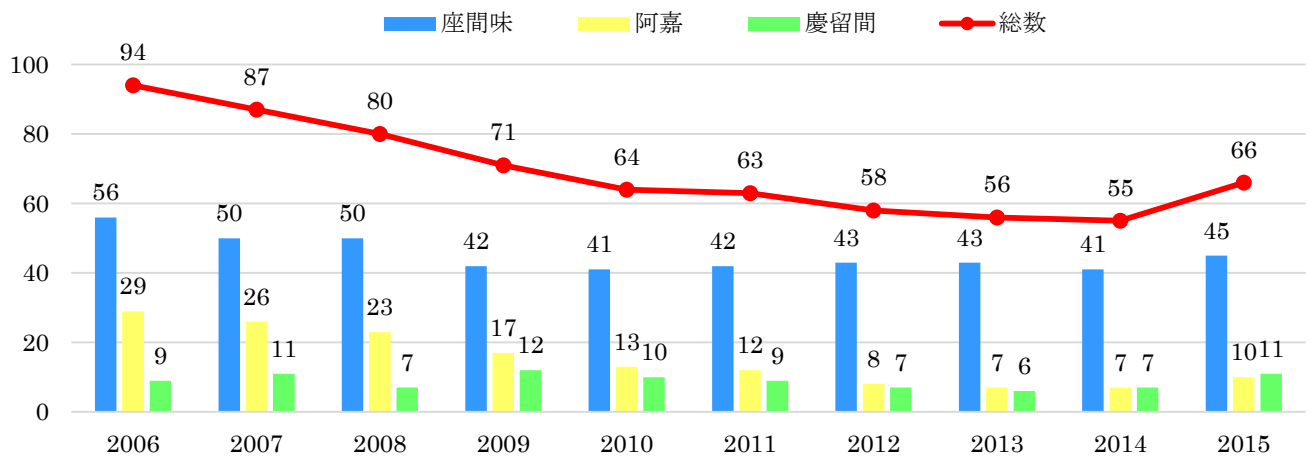
①利用状況

小学校の児童数は毎年減少傾向にありますが、2015年度（平成27年度）は多少の増加に転じてはいます。中学校の生徒数は全体的な動向でみると、減少傾向にあります。小学校児童数、中学校生徒数も将来人口の見込みから今後も減少傾向は続いていくと思われます。

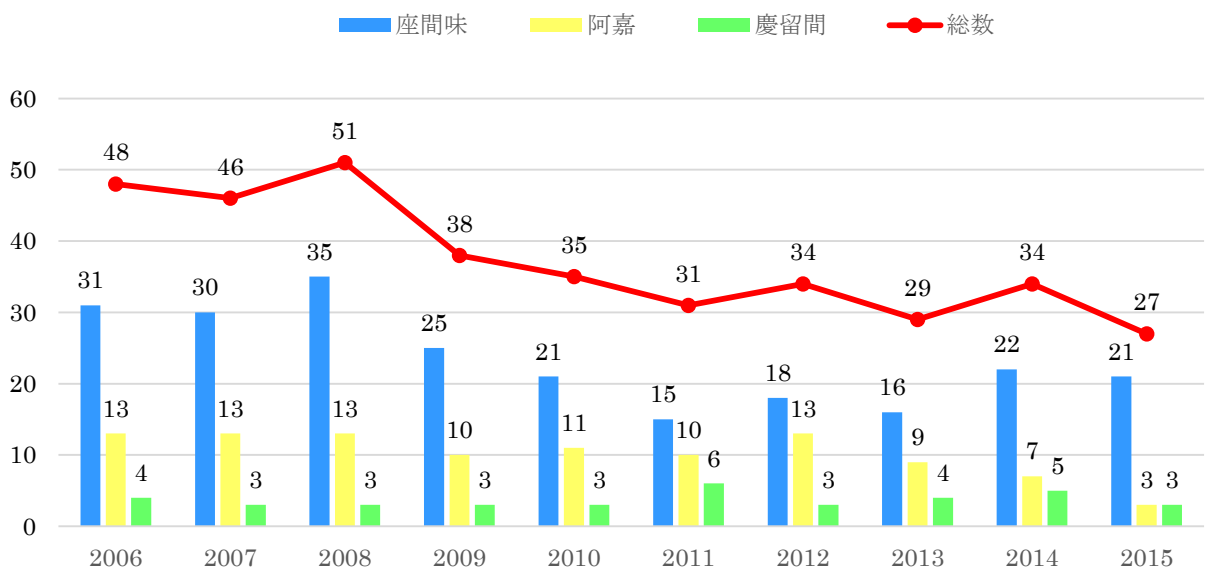
図表 小中学校在籍者数（単位：人）

地区	施設名称	2010年度 (平成22年度)	2011年度 (平成23年度)	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2015年度 ／ 2010年度
座間味	座間味小中学校	62	57	61	59	63	66	1.06
阿嘉	阿嘉小中学校	24	22	21	16	14	13	0.54
慶留間	慶留間小中学校	13	15	10	10	12	14	1.08

図表 小学校児童推移グラフ（単位：人）



図表 中学校生徒推移グラフ（単位：人）



5-2. その他教育施設

(1) 施設概要

①施設一覧

その他教育施設は2施設あります。座間味区の「座間味村立学校給食共同調理場」と阿真区にある「児童・生徒交流センター」です。

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	座間味 943	1981年度(昭和56年度)	—	253	1	単独
阿真	児童・生徒交流センター	阿真 620	1995年度(平成07年度)	2,620	950	1	単独

②設置目的

施設の設置目的は次のようになっています。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	座間味村立小学校及び中学校の学校給食調理等の業務を一括処理するため
阿真	児童・生徒交流センター	村内各地域間の児童、生徒及び自然、社会教育環境の異なる地区の児童、生徒が交流を通して、相互理解を深め、地域文化、豊かな自然等の「生きた教材」を活用して、心豊かなたくましい児童、生徒の育成に資するとともに、地域の障害学習、文化活動や交流を推進し、地域の活性化を図るため

③施設運営の状況

施設の運営状況は次のようになっています。

図表 施設運営の状況

地区	施設名称	運営時間	休所(館)日	運営形態	年間開館日数
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	8:00~16:45	土・日・祝	直営	200
阿真	児童・生徒交流センター	9:00~9:00	年末年始	直営	357

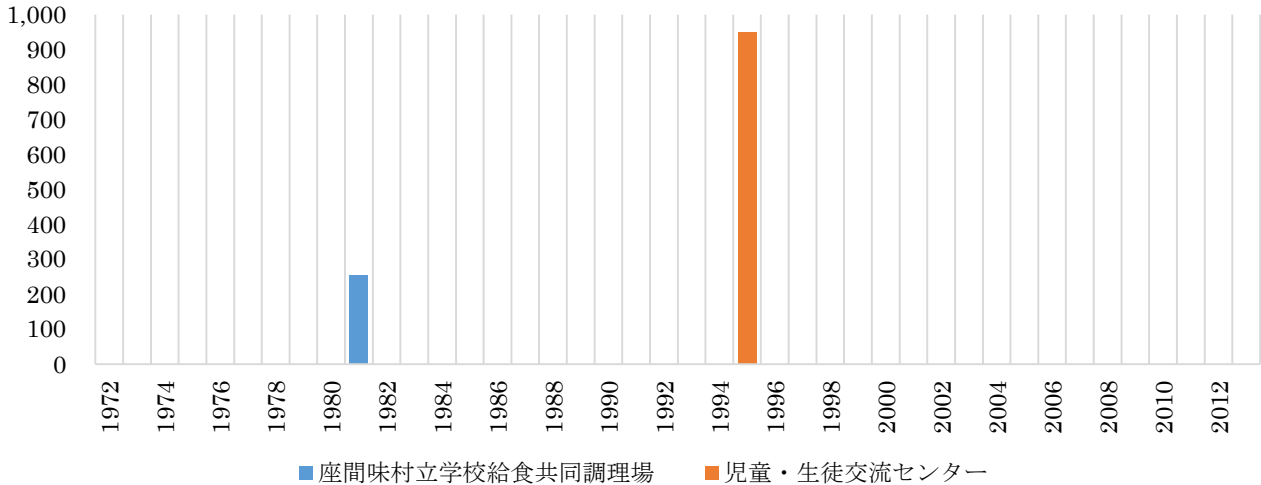
第4章. 機能別の現状と分析

④ 築年別整備状況

1981年度（昭和56年度）以前に建築された「座間味村立学校給食共同調理場」は、新耐震基準を満たした施設となっております。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



⑤ 建物状況

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	1	1	—	—	—
阿真	児童・生徒交流センター	1	1	—	—	—

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オストメイト	ベビーシート	有無	台数	
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿真	児童・生徒交流センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑥ 老朽化状況

「座間味村立学校給食共同調理場」の老朽化率は80%以上（更新検討時期施設：図表内“赤”にて表示）で、コンクリートのひび割れや剥離があり、危険な状況にあるため、早急に更新計画の見直し・実行を行わなければいけない時期にきています。

「児童・生徒交流センター」は平成7年に建築されてから20年経過しており、シロアリによる被害や屋根瓦の破損等があり、老朽化は進んでいませんが、修繕の検討が必要です。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味村立学校給食共同調理場	1981年度 (昭和56年度)	30,059,400	41	32	24,047,520	80.0%
阿真	児童・生徒交流センター	1995年度	304,000,000	47	18	145,564,758	47.9%

第 4 章. 機能別の現状と分析

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
		(平成 07 年度)					

6. 子育て支援機能

6-1. 幼稚園

(1) 施設概要

①施設一覧

子育て支援機能は2施設あります。座間味区に1施設と阿嘉区に1施設です。

慶留間区にも2011年度(平成23年度)まで「慶留間幼稚園」がありましたが、2012年度(平成24年度)以降は児童が在籍しておらず、休園状態のため、本章では省略しております。

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階 数	単 独 複 合
座間味	座間味幼稚園	座間味 943	1983年度(昭和58年度)	—	273	2	単 独
阿嘉	阿嘉幼稚園	阿嘉 316	1993年度(平成05年度)	203	203	1	単 独

②設置目的等

設置目的は次のとおりです。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味幼稚園	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境をあたえて、その心身の発達を助長することを目的とする
阿嘉	阿嘉幼稚園	

③運営状況

すべての施設が年間200日利用可能です。

図表 運営状況

地区	施設名称	運営時間	休所(館)日	運営形態	年間開館日数
座間味	座間味幼稚園	8:10~14:00	座間味村立幼稚園管理規則	直営	200
阿嘉	阿嘉幼稚園	8:10~14:00			

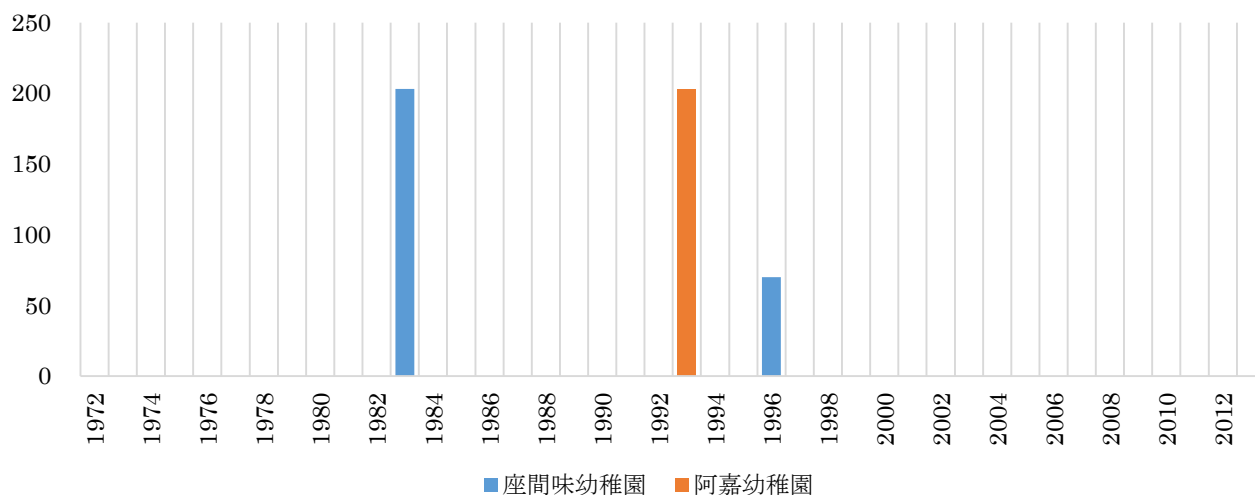
第4章. 機能別の現状と分析

④ 築年別整備状況

1981年（昭和56年）以前に建築された施設はありません。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



⑤ 建物状況

建物の状況は次のとおりです。

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	座間味幼稚園	2	2	—	—	財政部と調整のうえ、 早急に改築を行いたい
阿嘉	阿嘉幼稚園	1	1	—	—	—

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オスト メイト	ベビー シート	有無	台数	
座間味	座間味幼稚園	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿嘉	阿嘉幼稚園	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑥ 老朽化状況

「座間味幼稚園」は老朽化率が60%未満ですが、コンクリートのひび割れや剥離があり危険な状況にあります。更新の検討をしなければいけない時期に来ています。

「阿嘉幼稚園」は老朽化について当面問題はありますが、シロアリにより床等に被害があり、修繕を検討しなければいけない状況にあります。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味幼稚園	1983年度 (昭和58年度)	58,695,000	47	30	34,434,400	58.7%
阿嘉	阿嘉幼稚園	1993年度 (平成05年度)	43,645,000	47	20	19,203,800	44.0%

第4章. 機能別の現状と分析

(2) 利用の実態

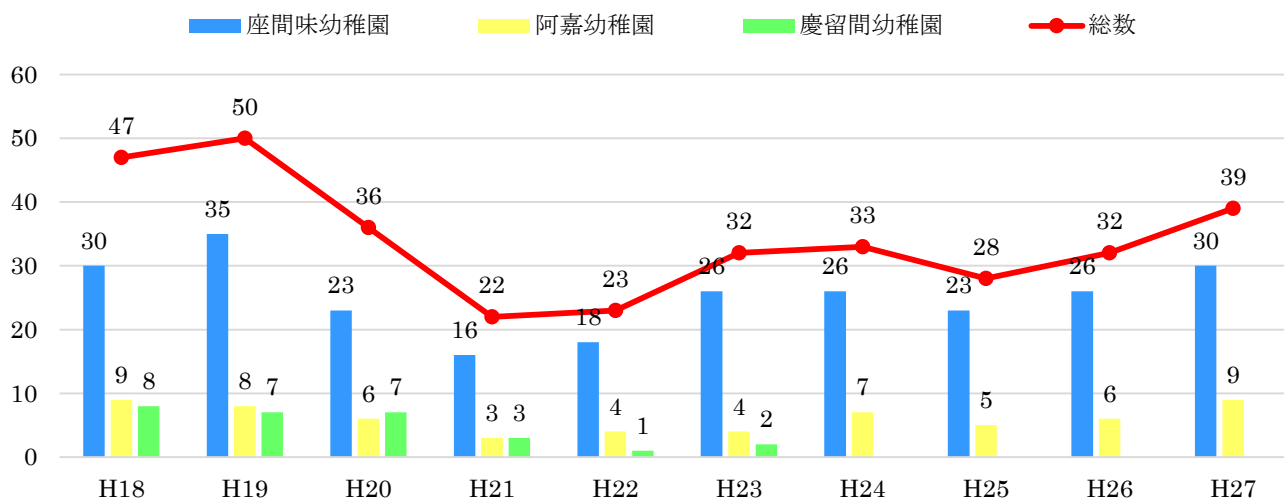
①利用状況

2006年度(平成18年)から2009年度(平成21年)までは児童数は減少傾向にありましたが、2010年度(平成22年)以降は増加傾向にあります。

図表 幼稚園在籍者数

地区	施設名称	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	平成27年度
座間味	座間味幼稚園	18	26	26	23	26	30
阿嘉	阿嘉幼稚園	4	4	7	5	6	9
慶留間	慶留間幼稚園	1	2	0	0	0	0

図表 幼稚園児童推移グラフ



第4章. 機能別の現状と分析

7. 村営住宅

7-1. 村営住宅

(1) 施設概要

①施設一覧

村営住宅は全部で17施設あります。座間味区に4施設、阿真区に3施設、阿佐区に2施設、阿嘉区に6施設、慶留間区に2施設あります。

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味第9団地	座間味 11	2001年度(平成13年度)	334	160	2	—
	座間味第1団地	座間味 122	1983年度(昭和58年度)	1,037	376	2	—
	座間味第7団地	座間味 167-1	1994年度(平成06年度)	2,429	293	2	—
	座間味第10団地	座間味 167-1	2001年度(平成13年度)	2,429	160	2	—
阿真	座間味第2団地	阿真 532-1	1989年度(平成元年度)	4,393	251	2	—
	座間味第5団地	阿真 532-1	1992年度(平成04年度)	4,393	262	2	—
	座間味第6団地	阿真 532-2	1993年度(平成05年度)	4,393	282	2	—
阿佐	座間味第3団地	阿佐 118	1990年度(平成02年度)	375	251	2	—
	座間味第8団地	阿佐 416-3	1996年度(平成08年度)	4776	313	2	—
阿嘉	阿嘉第3団地(A棟)	阿嘉 10	1997年度(平成09年度)	7,408	297	2	—
	阿嘉第3団地(B棟)	阿嘉 10	1997年度(平成09年度)	7,408	149	2	—
	阿嘉第3団地(B棟増築)	阿嘉 10	1999年度(平成11年度)	7,408	159	2	—
	阿嘉第3団地(C棟)	阿嘉 10	1999年度(平成11年度)	7,408	159	2	—
	阿嘉第1団地	阿嘉 42	1988年度(昭和63年度)	3,579	376	3	—
	阿嘉第2団地	阿嘉 42	1991年度(平成03年度)	3,579	392	3	—
慶留間	慶留間第1団地	慶留間 134	1991年度(平成03年度)	—	261	2	—
	慶留間第2団地	慶留間 134	1998年度(平成10年度)	—	317	2	—

②設置目的等

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味第9団地	座間味村営住宅設置及び管理条例
	座間味第1団地	
	座間味第7団地	
	座間味第10団地	
阿真	座間味第2団地	
	座間味第5団地	
	座間味第6団地	
阿佐	座間味第3団地	
	座間味第8団地	
阿嘉	阿嘉第3団地(A棟)	
	阿嘉第3団地(B棟)	
	阿嘉第3団地(B棟増築)	
	阿嘉第3団地(C棟)	
	阿嘉第1団地	
	阿嘉第2団地	
慶留間	慶留間第1団地	
	慶留間第2団地	

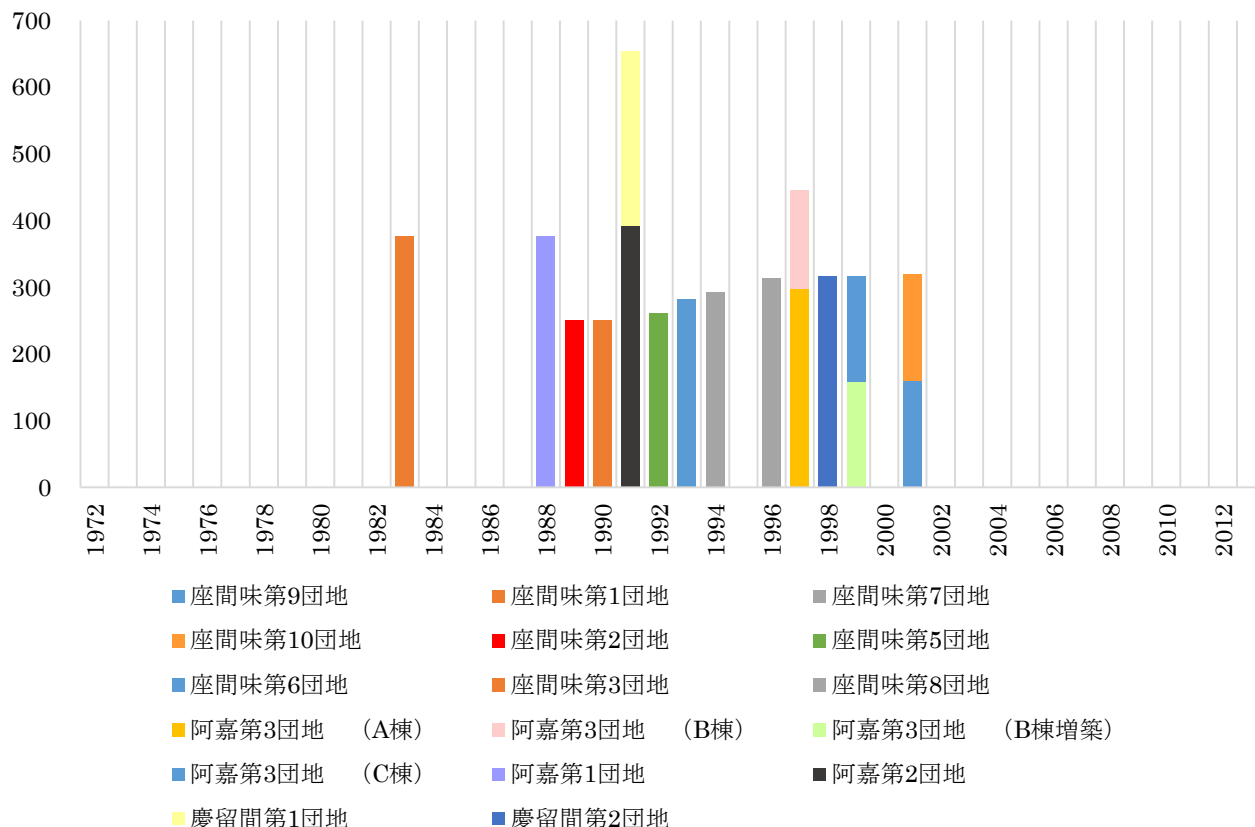
第4章. 機能別の現状と分析

③ 築年別整備状況

1981年（昭和56年）以前に建築された施設はありません。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



④ 建物状況

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	座間味第9団地	1	1	—	—	—
	座間味第1団地	1	—	—	—	—
	座間味第7団地	1	1	—	—	—
	座間味第10団地	1	1	—	—	—
阿真	座間味第2団地	1	1	—	—	—
	座間味第5団地	1	1	—	—	—
	座間味第6団地	1	1	—	—	—
阿嘉	座間味第3団地	1	1	—	—	—
	座間味第8団地	1	1	—	—	—
阿佐	阿嘉第3団地 (A棟)	1	1	—	—	—
	阿嘉第3団地 (B棟)	1	1	—	—	—
	阿嘉第3団地 (B棟増築)	1	1	—	—	—
	阿嘉第3団地 (C棟)	1	1	—	—	—
	阿嘉第1団地	1	1	—	—	—
	阿嘉第2団地	2	2	—	—	—
慶留間	慶留間第1団地	1	1	—	—	—
	慶留間第2団地	1	1	—	—	—

第4章. 機能別の現状と分析

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オストメイト	ベビーシート	有無	台数	
座間味	座間味第9団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第1団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第7団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第10団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿佐	座間味第2団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第5団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第6団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿嘉	座間味第3団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味第8団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿佐	阿嘉第3団地 (A棟)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉第3団地 (B棟)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉第3団地 (B棟増築)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉第3団地 (C棟)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉第1団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉第2団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
慶留間	慶留間第1団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	慶留間第2団地	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑤老朽化状況

老朽化の状況は次のとおりです。

「座間味第1団地」「座間味第7団地」「座間味第6団地」「座間味第3団地」は老朽化比率60%以上（更新検討施設：図表内“黄”にて表示）で、現在予算内で出来る部分の修繕を行っていますが、更新検討を計画する時期にきています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味第9団地	2001年度 (平成13年度)	48,842,500	47	12	16,956,144	34.7%
	座間味第1団地	1983年度 (昭和58年度)	69,597,000	47	30	45,934,020	66.0%
	座間味第7団地	1994年度 (平成06年度)	65,911,000	47	19	41,030,393	62.3%
	座間味第10団地	2001年度 (平成13年度)	48,842,500	47	12	16,956,144	34.7%
阿真	座間味第2団地	1989年度 (平成元年度)	51,548,538	47	24	29,648,678	57.5%
	座間味第5団地	1992年度 (平成04年度)	60,836,000	47	21	28,106,232	46.2%
	座間味第6団地	1993年度 (平成05年度)	55,426,405	47	20	35,787,024	64.6%
阿佐	座間味第3団地	1990年度 (平成02年度)	44,298,660	47	23	28,978,149	65.4%
	座間味第8団地	1996年度 (平成08年度)	74,743,000	47	17	27,953,882	37.4%
阿嘉	阿嘉第3団地 (A棟)	1997年度 (平成09年度)	54,982,000	47	16	19,353,664	35.2%
	阿嘉第3団地 (B棟)	1997年度 (平成09年度)	42,822,986	47	16	24,058,220	56.2%
	阿嘉第3団地 (B棟増築)	1999年度 (平成11年度)	43,558,514	47	14	13,416,018	30.8%
	阿嘉第3団地 (C棟)	1999年度 (平成11年度)	51,817,500	47	14	25,519,242	49.2%
	阿嘉第1団地	1988年度 (昭和63年度)	69,560,000	47	25	38,258,000	55.0%

第 4 章. 機能別の現状と分析

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
	阿嘉第 2 団地	1991 年度 (平成 03 年度)	60,873,000	47	22	32,697,792	53.7%
慶留間	慶留間第 1 団地	1991 年度 (平成 03 年度)	52,347,000	47	22	25,335,948	48.4%
	慶留間第 2 団地	1998 年度 (平成 10 年度)	102,125,100	47	15	49,352,037	48.3%

第4章. 機能別の現状と分析

8. その他広域対応施設

(1) 施設概要

①施設一覧

その他広域対応施設は5施設あります。機能別に大きく分けると「教員宿舎・教員住宅」と「船舶離発着施設・旅客待合所」の2つに分けられます。

図表 施設一覧

地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	座間味小中学校教員宿舎 教員住宅	座間味 943	1980年度(昭和55年度)	489	990	2	単独
阿嘉	阿嘉船舶離発着施設	阿嘉港湾内	2003年度(平成15年度)	—	496	1	単独
	阿嘉小中学校教員宿舎 教員住宅	阿嘉 316	1981年度(昭和56年度)	1,168	600	2	単独
	阿嘉港旅客待合所	阿嘉 51	1980年度(昭和55年度)	—	99	1	単独
慶留間	慶留間小中学校教員宿舎 住宅	慶留間 82	1984年度(昭和59年度)	632	620	2	単独

②設置目的等

設置目的は次のとおりです。

図表 設置目的等

地区	施設名称	設置目的
座間味	座間味小中学校教員宿舎 教員住宅	へき地における義務教育の円滑な実施及び教育の水準の向上を図る
阿嘉	阿嘉船舶離発着施設	地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2の規定に基づく
	阿嘉小中学校教員宿舎 教員住宅	へき地における義務教育の円滑な実施及び教育の水準の向上を図る
	阿嘉港旅客待合所	—
慶留間	慶留間小中学校教員宿舎 住宅	へき地における義務教育の円滑な実施及び教育の水準の向上を図る

③運営状況

すべての施設の運営形態が直営となっています。

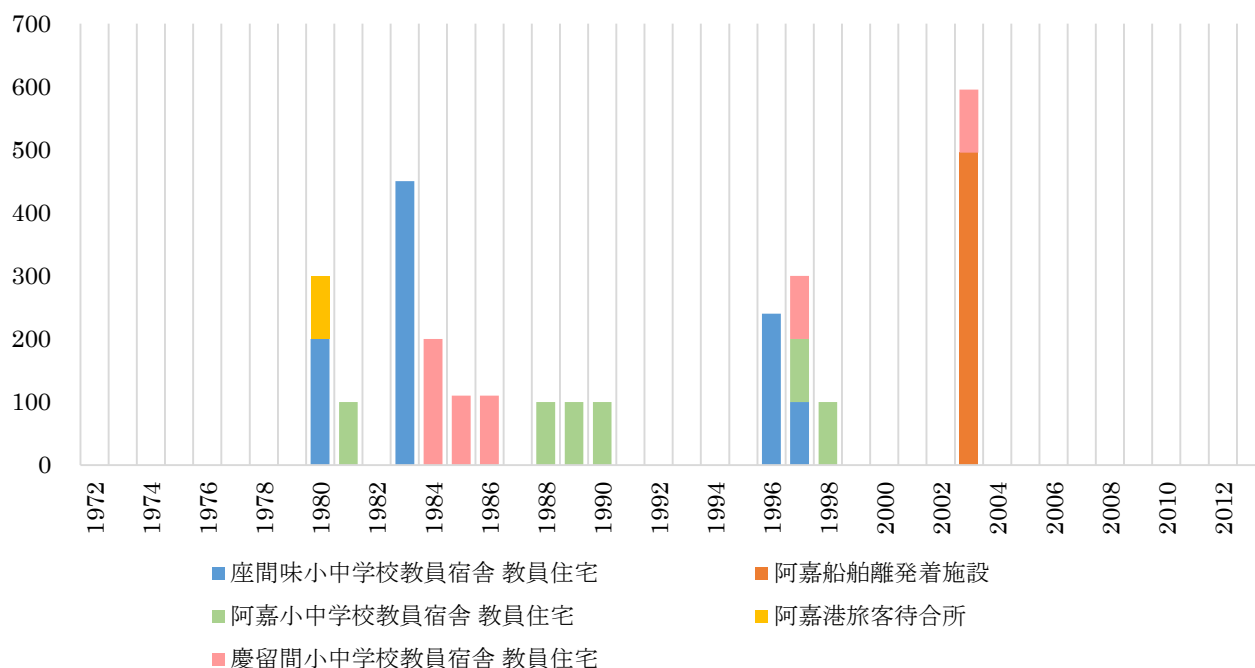
第4章. 機能別の現状と分析

④ 築年別整備状況

1981年（昭和56年）以前に建築された施設は「座間味小中学校教員宿舎」、「阿嘉港旅客待合所」、「阿嘉小中学校教員宿舎」の3施設がありますが、いずれの施設も新耐震基準を満たしています。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況（単位：㎡）



⑤ 建物状況

建物の状況は次のとおりです。

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	座間味小中学校教員宿舎 教員住宅	4	4	—	—	—
阿嘉	阿嘉船舶離発着施設	1	1	—	—	—
	阿嘉小中学校教員宿舎 教員住宅	6	6	—	—	—
	阿嘉港旅客待合所	1	1	—	—	—
慶留間	慶留間小中学校教員宿舎 住宅	5	5	—	—	—

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オスト メイト	ベビー シート	有無	台数	
座間味	座間味小中学校教員宿舎 教員住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿嘉	阿嘉船舶離発着施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉小中学校教員宿舎 教員住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿嘉港旅客待合所	—	—	—	—	—	—	—	—	—
慶留間	慶留間小中学校教員宿舎 住宅	—	—	—	—	—	—	—	—	—

⑥老朽化状況

各施設の老朽化状況は次のとおりです。

「座間味小中学校教員宿舎」は、ひび割れや、剥離があるため危険な状況にあるため、更新の計画を立てる時期にきています。

「阿嘉小中学校教員宿舎」は1981年度（昭和56年度）に建築されている老朽化比率60%以上の宿舎があること、老朽化によりコンクリートのひび割れや、剥離があり危険な状況な宿舎があることから、更新の計画を立てる時期にきています。

「阿嘉旅客待合所」は老朽化比率が80%以上（更新検討時期施設：図表内“赤”にて表示）となっており、床が木材でできているため、シロアリの被害がひどく、早急な更新計画の見直しをする時期となっております。

「慶留間小中学校教員宿舎」は老朽化比率60%未満となっておりますが、ひび割れや屋根瓦の損壊がみられるため、更新の計画を立てる時期にきています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	座間味小中学校教員宿舎 教員住宅	1980年度 (昭和55年度)	183,150,000	47	33	104,924,600	57.3%
阿嘉	阿嘉船舶離発着施設	2003年度 (平成15年度)	210,000,000	38	10	56,700,000	27.0%
	阿嘉小中学校教員宿舎 教員住宅	1981年度 (昭和56年度)	111,000,000	47	32	54,945,000	49.5%
	阿嘉港旅客待合所	1980年度 (昭和55年度)	25,000,000	41	33	20,625,000	82.5%
慶留間	慶留間小中学校教員宿舎 住宅	1984年度 (昭和59年度)	114,700,000	47	29	58,811,500	51.3%

第4章. 機能別の現状と分析

9. その他

(1) 施設概要

①施設一覧

その他施設として、農林・下水処理場・浄水処理施設等の他施設を取りまとめています。

図表 施設一覧

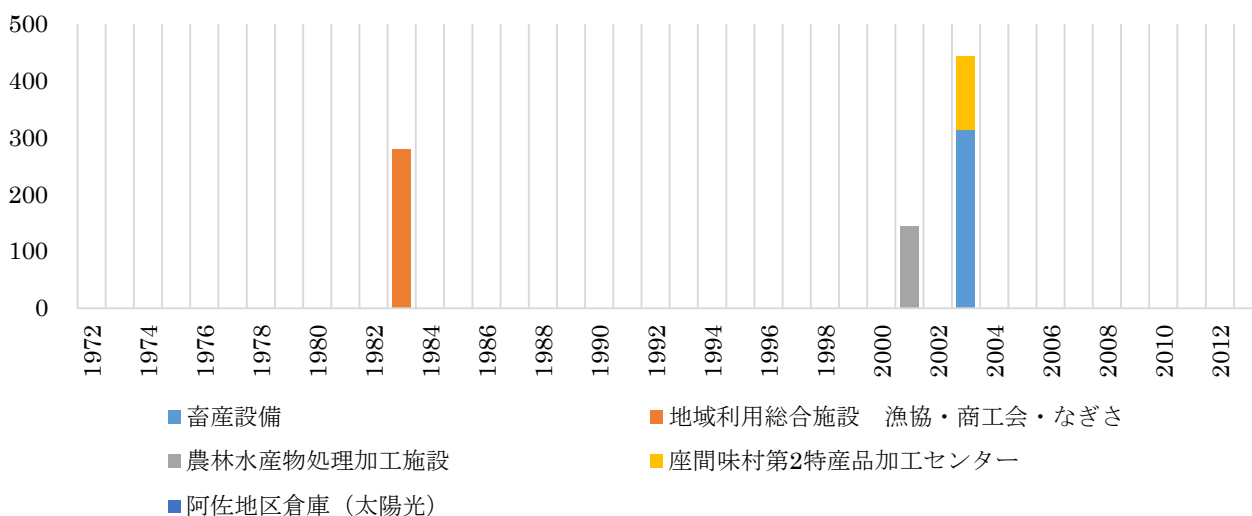
地区	施設名称	所在地	築年	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	階数	単独 複合
座間味	畜産設備	座間味地内	2003年度(平成15年度)	—	313	1	単独
	地域利用総合施設 漁協・商工会・なぎさ	座間味94-1	1983年度(昭和58年度)	280	280	2	単独
阿佐	農林水産物処理加工施設	阿佐260	2001年度(平成13年度)	—	143	—	—
	座間味村第2特産品加工センター	阿佐416-3	2003年度(平成15年度)	—	130	—	—
	阿佐地区倉庫(太陽光)	阿佐416	1972年度(昭和47年度)	—	—	—	単独

②築年別整備状況

その他施設の過年度の整備状況は以下のようになっています。

※ 耐震基準は、1981年の建築基準法改正により大きく改正されました。1981年以前に整備された建築物は耐震基準を満たしていない可能性があります。

図表 築年別整備状況(単位:㎡)



③建物状況

図表 建物状況①

地区	施設名称	全棟数	耐震診断			耐震補強実施 (予定含む)
			適合	不適合	未実施・不明	
座間味	畜産設備	1	1	—	—	—
	地域利用総合施設 漁協・商工会・なぎさ	1	1	—	—	—
阿佐	農林水産物処理加工施設	1	—	—	—	—
	座間味村第2特産品加工センター	1	1	—	—	—
	阿佐地区倉庫(太陽光)	1	—	—	1	—

第4章. 機能別の現状と分析

図表 建物状況②

地区	施設名称	バリアフリー経路			トイレ			障害者用駐車場		授乳室
		段差なし	案内設備 案内所	エレベーター	車いす用	オスト メイト	ベビー シート	有無	台数	
座間味	畜産設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	地域利用総合施設 漁協・商工会・なぎさ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
阿佐	農林水産物処理加工施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	座間味村第2特産品加工センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	阿佐地区倉庫（太陽光）	—	—	—	—	—	—	—	—	—

④老朽化状況

16施設中、5施設が老朽化比率60%以上（更新検討施設：図表内“黄”にて表示）となっています。

図表 老朽化状況

地区	施設名称	取得年度	取得金額	耐用年数	経過年数	減価償却累計額	老朽化比率
座間味	畜産設備	2003年度 (平成15年度)	21,214,000	31	10	7,000,620	33.0%
	地域利用総合施設 漁協・商工会・なぎさ	1983年度 (昭和58年度)	53,515,000	50	30	32,109,000	60.0%
阿佐	農林水産物処理加工施設	2001年度 (平成13年度)	48,587,000	38	12	24,188,160	49.8%
	座間味村第2特産品加工センター	2003年度 (平成15年度)	15,000,000	38	10	4,050,000	27.0%
	阿佐地区倉庫（太陽光）	1972年度 (昭和47年度)	—	—	—	—	—

※「阿佐築倉庫（太陽光）」は取得価額が不明のため省略しています。

第5章. 将来の施設更新投資等の試算（財務シミュレーション）

1. 更新投資資産の方法

各施設について、固定資産台帳の情報に基づいて試算します。

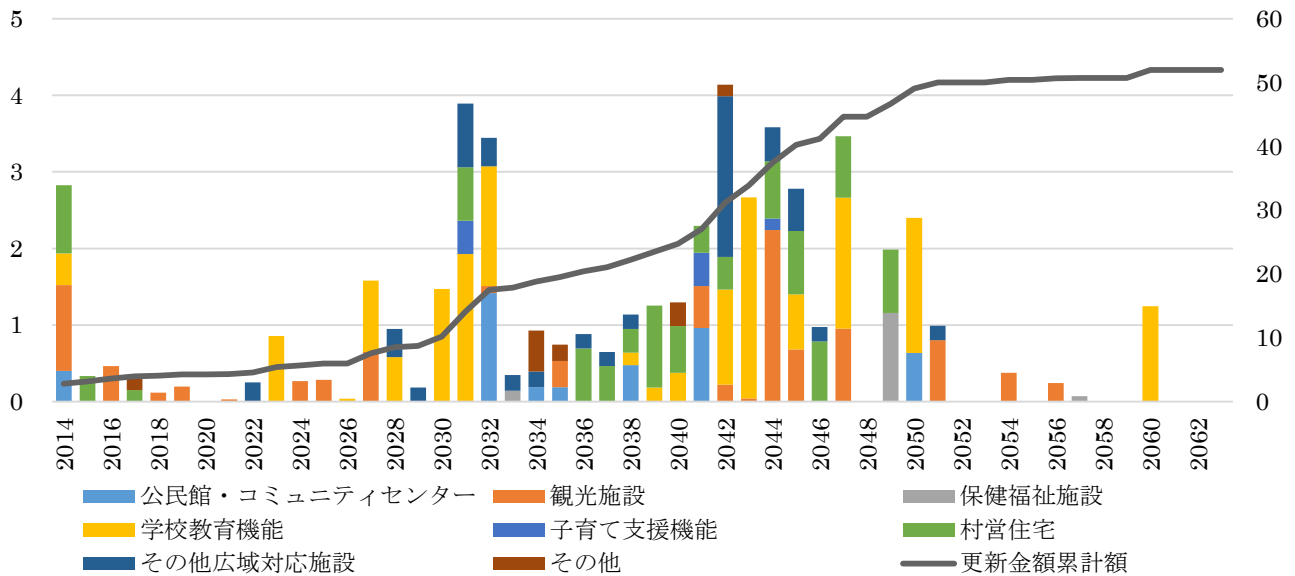
施設の更新時期は、各資産の取得年度から固定資産台帳に記載されている耐用年数が経過した時点（法定耐用年数経過時点）で、固定資産台帳内の整備金額で再整備することとします。

2. 公共建築物に係る更新投資の試算

公共建築物の今後50年間の更新投資を試算すると下図のようになります。耐用年数に応じた施設の建替を想定すると**今後50年間で約52億円の更新投資が必要**になります。

50年間の平均年間必要更新投資額は、**年間約1億円必要**です。

図表 公共建築物の年度別更新金額（単位：億円）



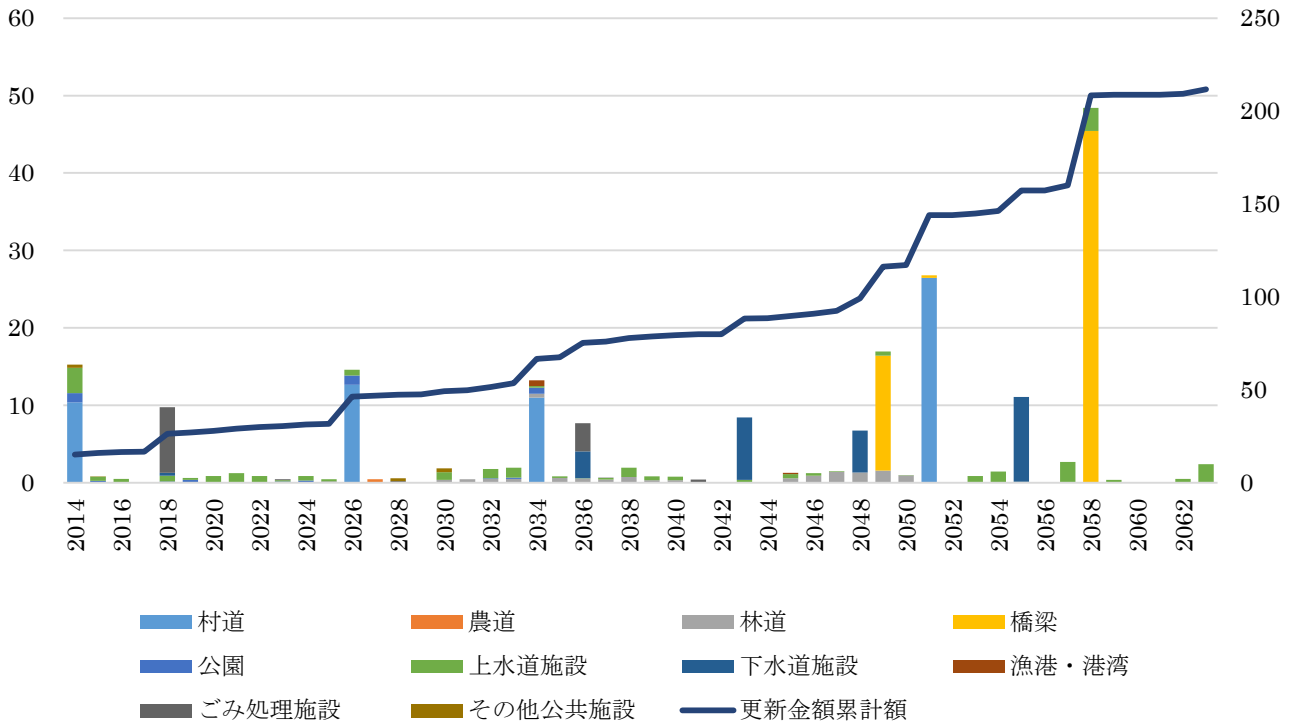
※平成27年度建築の役場庁舎は2054年度（平成79年度）に耐用年数に応じた更新時期を迎える見込みです。（整備金額約10億円）

3. インフラ資産に係る更新投資の試算

インフラ資産の今後50年間の更新投資を試算すると下図のようになります。耐用年数に応じた施設の更新を想定すると**今後50年間で約212億円の更新投資が必要**になります。

50年間の平均年間必要更新投資額は、**年間約4億2千万円必要**です。

図表 インフラ資産の年度別更新金額（単位：億円）

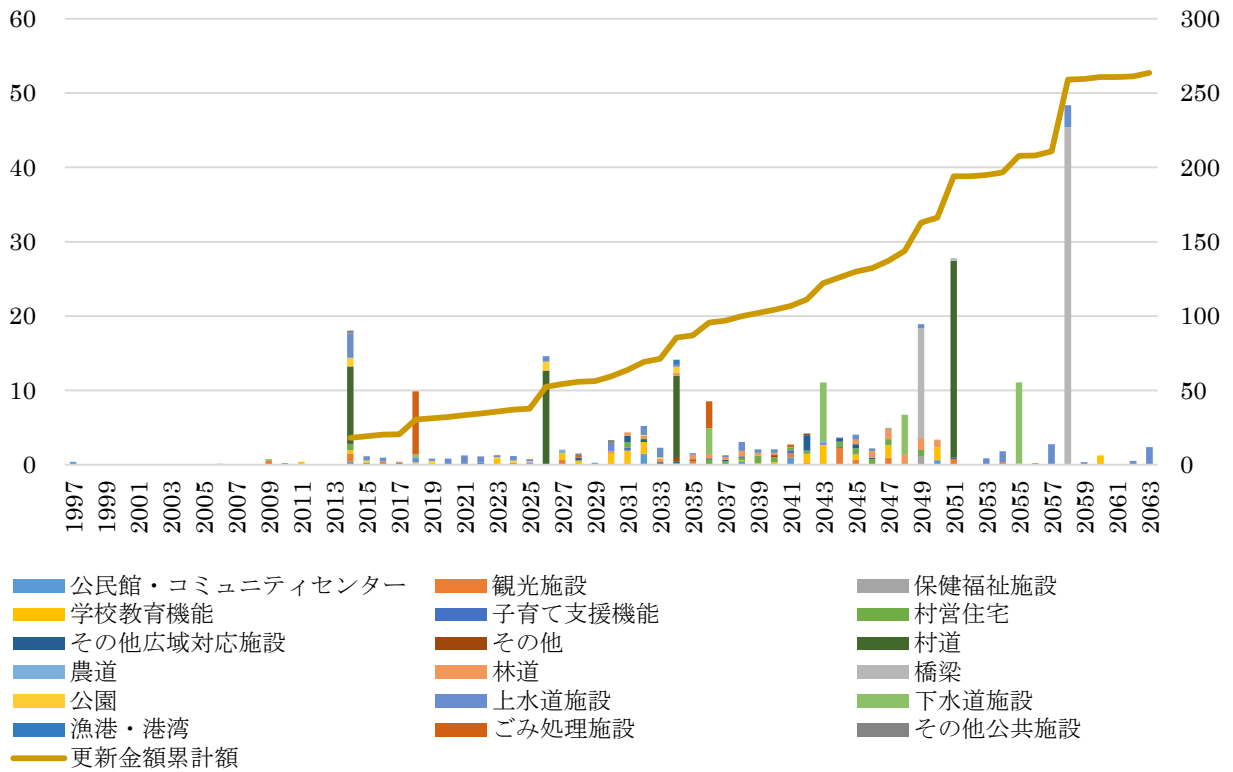


4. 公共施設（全体）に係る更新投資の資産

公共施設全体の今後50年間の更新投資を試算すると下図のようになります。耐用年数に応じた施設の更新を想定すると**今後50年間で約264億円の更新投資が必要**になります。

50年間の平均年間必要更新投資額は、**年間約5億3千万円必要**です。

図表 公共施設（全体）の年度別更新金額（単位：億円）



5. 財務シミュレーション

(1) 財務シミュレーションの前提条件

財務シミュレーションは、2014年度（平成26年度）決算データを使用し、以下の設定で試算を行います。なお、試算は2015年度（平成27年度）から50年後の2064年度（平成76年度）まで試算します。

歳入－歳出の額がマイナスとなり、そのマイナス分の累計が資金と基金の合計を上回ると、村の財務運営が困難になります。

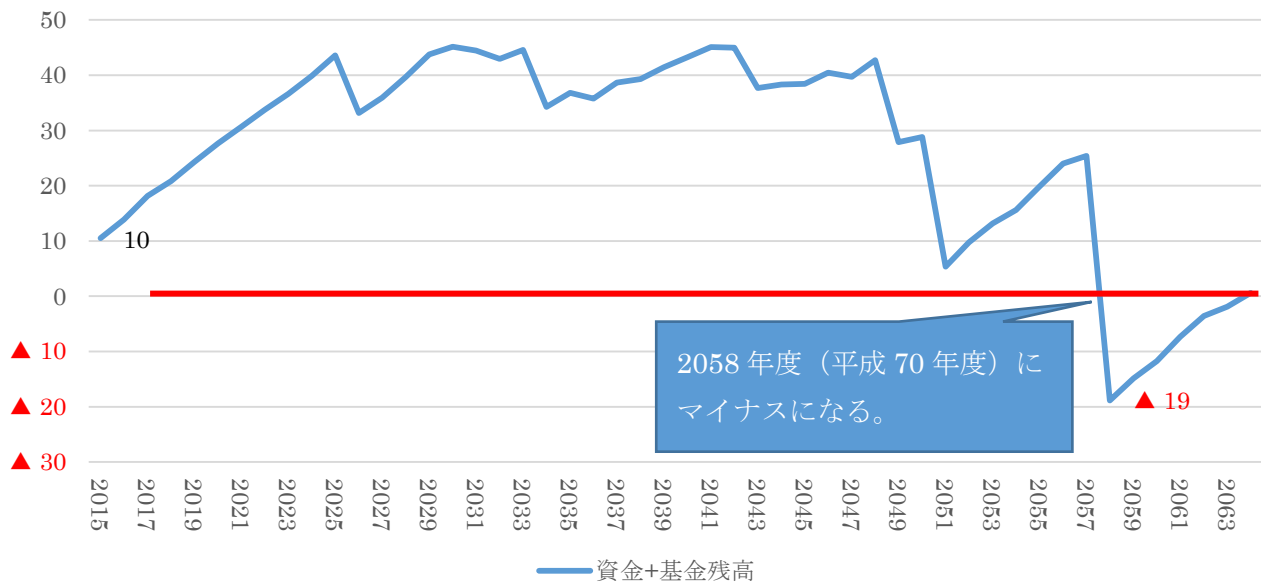
【シミュレーションの設定】

- 資金収支計算書は、2014年度（平成26年度）と同じ金額で推移するものと仮定します。
- 全てのインフラ施設及び建築物について、耐用年数到来ごとに整備金額で施設更新を行うこととします。
- 新規建設費は、2014年度（平成26年度）の7割を見込んでいます。

(2) 財務シミュレーション実施結果

前述の設定に基づいてシミュレーションを行うと、2058年度（平成70年度）には、村の資金収支がマイナスに転じます。

図表 財務シミュレーション結果（単位：億円）



財政を円滑に運営させるためには、公共施設の更新投資や大規模修繕費用を抑えることが必要となります。公共施設のうちインフラ施設を削減することは、現在の本村においては困難であると考えられます。そのため、公共建築物の新規建設費を削減し、財政収支がマイナスにならないようにする必要があります。

第6章. 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針

1. 現状の課題に関する基本認識

本村は今までの人口推計や将来人口推計を見ると、少子高齢化の進展が推測されます。それに伴い、公共施設等の利用需要の変化や税収の減少、扶助費の増加が見込まれる為、長期的な公共施設等のマネジメントが求められます。また、前段の更新投資の試算においては、道路・橋梁や上下水道などのインフラ資産等の整備費用が膨大になることから、インフラ資産等の更新費用の確保も課題として残ります。

2. 計画期間

本計画は、公共施設の耐用年数（寿命）等を鑑み、中長期的な視点が不可欠であることから2015年度から2064年度までの将来予測推計に基づき、2017年度から2064年度までの方向性を策定しました。

3. 数値目標

今後も適切な行政サービスを提供し続けていくためには、本村の将来における課題を解消すべく公共施設等の管理に関する基本方針を定め、それに基づく公共施設の安全性の確保や適正配置の検討による公共施設等のマネジメントを行い、施設の長寿命化並びに施設機能の統廃合や集約化、PPP/PFI（民設民営等）の活用、他市町村との公共施設の広域連携等についても検討したうえで、住民ニーズに対応した効率的、効果的な管理の実現が必要です。以上を踏まえて、計画の実効性を確保する為に数値目標を設定することとします。数値目標については、第5章の財務シミュレーションを考慮し、以下のとおり設定します。

計画期間内に10億円の総コストを縮減することを目標とします。

4. 公共施設マネジメント取り組みの基本原則

次の世代に大きな負担を残さないために、長期的な視点から計画的、効率的に公共施設マネジメントを推進していく必要があります。

そこで、公共建築物とインフラ資産それぞれに対し、以下の基本原則を設定します。

(1) 公共建築物の基本原則

①新規整備は原則として特殊性が認められた事業のみ行う

長寿命化、維持補修計画などを適正に行い、既存施設の有効活用を図り、新規整備は原則行わないこととします。仮に、新設が必要な場合は、費用対効果を考慮し実施を検討します。

②更新は複合施設の検討を前提に行う

統合、整理や遊休施設の活用、複合化等によって、機能維持を考慮しながら、村民生活の利便性を損なうことがないように施設保有量を縮減します。

また、複合施設の管理・運営は一元化・効率化します。さらに、複合化後の空いた土地は、活用、処分を促進します。

③施設コストの維持管理、運営コストを縮減する

PPP/PFIなど民間を活用し、機能を維持・向上させつつ、改修・更新コスト及び管理運営コストを縮減します。

(2) インフラ資産の基本原則

①費用対効果を十分に踏まえた整備を行う

現状の投資額（一般財源）を予算総額の範囲内で、費用対効果や経済波及効果を考慮し、新設及び改修・更新を実施します。

また、優先順位の設定等により、予算総額の縮減に合わせた投資額を設定します。

②維持管理・運営コストを縮減する

長寿命化を可能な限り図るとともに、計画的、効率的な改修・更新を推進します。また、民間活用を視野に入れ、機能を維持・向上させつつ、改修・更新コスト及び管理運営コストを縮減します。

5. 公共施設等の管理に関する基本的な考え方

(1) 点検・診断等の実施方針

- 施設の継続的な運営(利用)を実施することが確実に見込まれている施設については、法定点検のほか、予防保全型維持管理の視点に立って必要に応じた任意の調査、点検を効果的に実施します。
- 地域住民による情報提供や定期的な安全点検等により状況を随時確認し、関係者で情報共有を図りながら適正な管理を行います。

(2) 安全確保の実施方針

- 利用者と情報を共有しつつ、公共建築物の危険性が認められた場合は、庁議等で供用制限・供用廃止等を検討し、危険場所に表示板を設置、または撤去を行います。

(3) 長寿命化の実施方針

- 既に策定済みの個別の長寿命化計画については、本計画に準じて継続的に見直しを行い維持管理、修繕、更新等を実施することとし、その他の施設については、本計画に準じたうえで、必要に応じて個別に長寿命化計画等を策定します。

(4) 民間活用（PPP/PFI等）活用の考え方

- 施設の維持管理・運営コストを抑制しつつサービスの質を向上するため、指定管理者制度などを活用していきます。

(5) 維持管理・修繕・更新等の実施方針

- 維持管理および修繕を自主的に管理し、自然災害における不測の事態にも対応できるよう計画的・効率的に行います。また、本村は塩害環境下にあるため、外壁の定期的な塗装等による予防保全型の維持管理を実施していきます。
- 更新する場合は、むらづくりとの整合性を保ち公共施設のコンパクト化や効率化の観点から、土地や建物について、単独更新以外の統合や複合化について検討を行います。
- 更新・改修の方針については、統合や廃止の推進方針と整合性を図ります。

(6) 耐震化の実施方針

- 長寿命化計画による耐震診断・耐力度調査により、計画的・効率的な施設整備を図ります。

(7) 統合や廃止の推進方針

- それぞれの必要性について検討し、民間施設の活用・他機能での代用・取り壊し等を含め実施します。一部の施設は他機能を統合した総合的複合施設として建て替えを検討します。

第7章. 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

1. 公共建築物

区分	基本方針
行政窓口機能	<ul style="list-style-type: none"> ○長寿命化を計画的に進めていき、適切かつ効率的な維持管理を図ります。 ○老朽化が進み、建替えが必要な際は他機能を含めた複合施設としての更新を検討します。
公民館・コミュニティセンター等	<ul style="list-style-type: none"> ○長寿命化を計画的に進めていき、適切かつ効率的な維持管理を図ります。 ○今後は稼働率や地域ごとのスペースを考慮し、周辺施設との複合化等の配置最適化を目指します。
観光施設	<ul style="list-style-type: none"> ○各施設の状態を適切に把握し、適宜長寿命化を検討した上で維持管理費の縮減を図ります。
保健・福祉機能	<ul style="list-style-type: none"> ○各施設の利用状況を考慮し、行政サービスの水準を維持し公平性も重視した施設の複合化を検討します。 ○維持管理の適正化など、維持管理費の縮減を図るとともに、民間活用等の運営方法等についても検討します。
学校教育機能	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域の特性を考慮し、今後は学校教育機能の一般開放、もしくは他機能との複合化を検討します。 ○余裕スペースが今後出てくるようであれば、その活用方法についても積極的に検討していきます。
子育て支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ○建替え時には学校教育機能等への複合化を検討します。
村営住宅	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の耐力度調査・耐震診断の結果、長寿命化及び建替えのコストを検討したうえで、適宜更新を行います。 ○今後の人口の推移や稼働率に応じて、団地・地域・棟数を含めた配置最適化を図ります。
その他広域対応施設	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は計画的な長寿命化による維持コストの縮減を図りますが、長寿命化にそぐわない施設については適宜建替えを行います。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化が進んでいる施設については早急に建替えの検討が必要ですが、他施設との複合・集約化も検討します。 ○維持管理の適正化など、維持管理費の縮減を図るとともに、民間活用等の運営方法等についても検討します。

2. インフラ資産

区分	基本方針
道路 (村道) (農道) (林道)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の機能や必要性などを十分に検討し、客観的な観点から整備を進めていきます。 ・予防保全等の効率的な補修方法について継続的に検討し、将来的には舗装維持管理費用の縮減を目指していきます。
橋梁	<ul style="list-style-type: none"> ・「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、維持管理体制の構築、計画的な補修・架替等を実施し、橋梁・函渠を長寿命化させることで、道路ネットワークの安全性・信頼性の確保と維持管理費用の縮減、平準化を図っていきます。 ・事後保全型管理から予防保全型管理へ移行し、橋梁の健全度を回復していきます。
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化を計画的に進めていき、ライフサイクルコストの縮減に努めます。 ・毎月の点検、遊具メンテナンスなどの定期点検を実施し、安全に施設を利用できるよう管理し、予防保全型の維持管理に努めます。
上水道施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「座間味村水道ビジョン」に基づき、ライフサイクルコストの縮減に努めます。 ・毎月の点検、メンテナンスなどの定期点検を実施し、安全に利用できるよう管理し、予防保全型の維持管理に努めます。
下水道施設	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度策定予定の「下水道ストックマネジメント」に基づき下水道施設の適正かつ計画的な維持管理を進めていきます。 ・下水道の有すべき機能を維持するため、耐震診断を行い、現況施設の状況に応じた耐震対策を実施していきます。 ・計画的な点検、清掃、補修による施設の長寿命化を図り、資産を有効に活用しながら、予防保全型の維持管理に努めていきます。 ・既存施設の中でも、中継ポンプ施設は重要であることから、腐食・損耗・運転状況を勘案し、優先順位をつけながら計画的に維持修繕に努めていきます。
漁港・港湾 ごみ処理施設 その他公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「機能保全計画（仮）」の策定を検討し、計画的に補修・改修を行っていきます。 ・防波堤などの危険箇所には看板設置等を行い、安全対策を講じていきます。 ・県所有の施設については県の方針に沿って計画的・効率的に維持していきます。 ・施設状況を適切に把握し、継続使用か処分か検討していきます。

第8章. 計画の推進にあたって

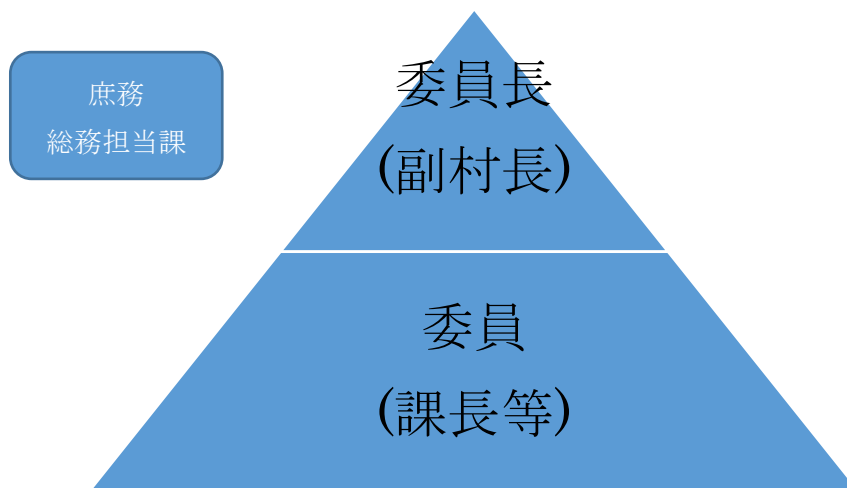
1. 全庁的な取組体制の構築方針

(1) 庁内推進体制

公共施設の総合的な管理を推進していくにあたり、総務担当課が中心となって、相互に連携しつつ全庁横断的な連携・調整機能を発揮できる庁内推進体制を構築します。

庁内推進体制としては、座間味村公共施設等総合管理計画策定推進委員会(以下「委員会という。」)と位置づけ、公共施設等の情報を管理・集約する部署を定めて的確に運用していきます。また、委員会長の判断により、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見等を聴取し、具体的な事案を効率的に推進していきます。

また、毎年度の決算情報に加え、公会計制度に基づいた財務書類・固定資産台帳から得られる情報を活用したマネジメント手法を構築します。



(2) 村職員の啓発・意識付け

公共施設の総合的な管理を推進していくためには、公共施設に係るコスト、将来を含めた本村の財政状況、公共施設の適正管理のあり方などを各職員が十分理解し、意識を持つ必要があります。

そのため、社会経済情勢の変化、財政状況、人口減少・少子高齢化に伴う村民ニーズの変化等をふまえた適切な公共施設の管理を実施できるよう、研修や勉強会等を適宜実施することなどにより、公共施設の総合的な管理に対する村職員の理解の促進、意識の醸成を図ります。

2. フォローアップの実施方針

(1) 個別施設ごとの推進計画・アクションプラン等の策定

本計画に示す公共施設の総合的な管理に対する基本的な考え方や取組の方向性に基づき、今後は個別施設ごとに、長寿命化計画や施設再配置計画等といった、具体的な取組を実践していくための推進計画・アクションプランの策定を進めていきます。なお、個別施設ごとの推進計画・アクションプラン等の策定にあたっては、「委員会」を中心とした全庁横断的な連携・調整機能を発揮し、的確な計画策定に留意します。

(2) 計画の進行管理

本計画の進捗管理については、「委員会」を中心として、計画の進捗状況や達成度等について検討・協議し、的確に管理を行います。

計画の見直しについては、各個別計画の策定や見直しを実施した場合、本村のむらづくりの動向や社会経済情勢等に大きな変化が生じた場合などにも、必要に応じて適宜見直しを行い、適宜検討を行います。

3. 情報管理及び共有方策

(1) 公共施設等に関する情報の一元管理

本計画及び公会計制度に基づいた財務書類・固定資産台帳は総務担当課で一元管理を行います。これらのデータは定期的に情報更新を行い、委員会等への共有化を図っていきます。

(2) 村民等との情報共有・相互理解の醸成

公共施設の総合的な管理にあたっては、村民との相互理解を深め、各段階で関係する各主体との合意形成を醸成することが不可欠になります。

そのため、本計画に基づき、本村の公共施設の総合的な管理に対する考え方や目指す姿、施設の有効利用や効率的な管理運営に向けた取組の方向性などを広く情報発信し、周知・啓発を図っていきます。特に、村民生活と密接なかかわりを持つ公共施設については、村民の意見を把握し検討に反映するなど、公共施設の管理に対して村民の主体的な参画を促し、協働による取組を推進していきます。

座間味村公共施設等総合管理計画

座間味村 総務・福祉課

平成 29 年 3 月発行

〒901-3496 沖縄県座間味村座間味 109

TEL : 098-987-2311

FAX : 098-987-2004

HP : <http://www.vill.zamami.okinawa.jp/>